8106-B
T95100089

PATLITE

緊急地震速報表示端末　FTE-D04

取扱説明書

株式会社パトライト

ⓒPATLITE Corporation

8106-B/ T95100089

はじめに

このたびは、パトライト“緊急地震速報表示端末　FTE-D04”（以下、本機）をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用の前に、この取扱説明書（本書）をよくお読みの上、正しくお使いください。また、本書は大切に保管してください。保守・点検や補修などをするときは、必ず本書を読み直してください。

この取扱説明書はファームウェアVer 1.13 以降の製品に対応しています。

ーおことわりー

- 本機のみで緊急地震速報を受信することはできません。地震情報を表示するためには、気象庁からの緊急地震速報を受信・解析するソフトとの連携が必要です。
- 緊急地震情報や気象情報、交通情報などの情報を受信するためには、各種配信業者様との契約が必要となります。
- 本機は、緊急地震速報を受信し、それを報知するものであり、地震の予知および災害の軽減を保証するものではありません。地震が起こった時に速やかに行動できるよう、十分に避難訓練等を行ってください。
- 本機に表示される地震波到達までの予想時間・到達時の予想震度は、実際の到達までの時間・到達時の震度と異なる場合があります。
- 設置場所付近で直下型地震が起こった場合，初期微動から大きな揺れが来るまでの時間差が短く，地震の報知が間に合わない場合があります。
- 気象庁から送信される緊急地震速報には誤報が含まれている場合があり、本機が緊急地震速報を表示しても地震が発生しないことがあります。
- 地震の発生を気象庁が観測できなければ緊急地震速報が送信されません。その場合、本機が緊急地震速報を表示していなくても地震が発生する場合があります。
- 地震に起因するあらゆる損失や損害、および事故に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の著作権は、株式会社パトライトが所有しています。
- 本書の内容の一部または全部を複製もしくは転載することを禁止しています。
- 本書の内容に関しては、製品の改良のため、予告無しに変更することがあります。
- 「Internet Explorer」は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 「Ethernet」は米国Xerox社の登録商標です。
- その他の社名および製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- 本機で使用しているフォントは（株）リムコーポレーション社製のフォントを使用しています。
- 本機は、厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買い上げの販売店または最終ページに記載していますフリーコールへお問い合わせください。
- お客様または第三者が、本機の使用を誤ったり、使用中に生じた故障、およびその他の不具合によって受けられた損害については、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機の修理のために生じる本機の取付け、取外し工事などの付帯費用については、保証期間中であっても当社はその費用を負担しませんので、あらかじめご了承ください。

目次

はじめに 2

目次 3

本書の見方 5

1. 安全にお使いいただくために 6

1.1. 取り扱い上のご注意 7

2. 呼称名称 8

2.1. 内容物の確認 8

3. 各部の名称と寸法 9

3.1. 各部の名称と働き 9
3.2. 外形寸法図 10

4. 取付方法 11

5. 接続方法 12

5.1. 配線方法 12
5.2. バッテリーを取付ける 13

6. 使用方法 14

6.1. 緊急地震速報のシステム構成 14
6.2. 本体機能概要 15
6.3. 本体の設定をおこなう 18
6.3.1. ログイン 18
6.3.2. ネットワーク設定 19
6.3.3. ユーザ認証設定 21
6.3.4. 時刻設定 22
6.3.5. サーバアドレス設定 24
6.3.6. 地震速報動作設定 25
6.3.7. 通常運転時動作設定 30
6.3.8. 外出モード設定 33
6.3.9. ハートビート設定 34
6.3.10. 初期化 35
6.3.11. 再起動 36
6.3.12. ログアウト 36
6.4. 本体表示画面の見方 37
6.4.1. 画面構成一覧 37
6.4.2. 日時表示画面の見方 38
6.4.3. メニュー画面を表示する 39
6.4.4. 緊急地震速報を受信したとき 40
6.4.5. e情報を受信したとき 42
6.4.6. e情報を確認する 43

6.4.7. 緊急情報を受信したとき 44
6.4.8. 緊急情報を確認する 45
6.4.9. キャンセル報を受信したとき 46
6.4.10. 定時報を受信したとき 47
6.4.11. クリアコマンドを受信したとき 47
6.4.12. 履歴を確認する 48
6.4.13. 外出モードに設定する/外出モードを解除する 49
6.4.14. 強制消音に設定する/強制消音を解除する 50
6.4.15. デモモードで動作させる 51
6.4.16. 動作確認する 52
6.4.17. 本機の設定を確認する 53
6.4.18. 電池取付け設定をする 54
6.4.19. 電池取外し設定をする 55

7. FTEマネージャ 56

7.1. FTEマネージャをインストールする 56
7.2. FTEマネージャをアンインストールする 59
7.3. FTEマネージャの操作方法 59
7.3.1. FTEマネージャを起動する 59
7.3.2. ユニット一覧を表示する 60
7.3.3. ネットワーク設定 60
7.3.4. ファームウェアのアップデート 62

8. 修理を依頼される前に 65

8.1. 通知画面 65
8.2. 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき 66

9. 本機の仕様と概要 67

9.1. 一般仕様 67

10. フリーソフトウェア利用許諾条件 68

10.1. GNU GENERAL PUBLIC LICENSE 68
10.2. GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE 74
10.3. BSDライセンス 84
動作設定チェックシート 86

本書の見方

マークについて

本書では記載内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害、損害、などを次の表示マークで区分し、説明しています。

⚠ **警告** この表示の欄は、「使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ **注意** この表示の欄は、「使用者が傷害を負う危険が想定される、または物的損害が想定される」内容です。

注意 **この表示欄は、「正常な動作ができない可能性が想定される」内容です。**

Point **この表示欄は、「本機を動作させるためのポイント」となる内容です。**

1. 安全にお使いいただくために

ご使用前に、次の注意事項をよくお読みの上正しくお使いください。また、保守・点検するときは、必ず本書をお読みください。

⚠ 警告

本機を使用して、人命にかかわる制御や、重要な操作（非常停止等）にかかわる制御をしないでください。また、本機の誤操作、誤動作、故障に対応できるようなシステムを設計してください。

⚠ 注意

- 本機を分解・改造しないでください。電圧の高い部分があり危険です。また、故障の原因となります。
- 本機の内部に水や薬品などの異物、また鋼鉄線などの金属の異物が入らないようにしてください。故障や感電の原因となります。
- 火気の近くや高温多湿な場所には取り付けないでください。また、腐食性ガスや可燃性ガスが発生するような場所には取り付けないでください。
- 落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。破損・故障・感電の原因となります。
- ほこりや湿気の多いところで長時間ご使用になる場合は定期的に電源プラグに付いた埃を取り除いてください。電源プラグにほこりやゴミが付着したままお使い続けると火災の原因になります。
- 濡れた手で電源コンセントに触れないでください。感電の原因となります。
- ケーブルを強く引っ張らないでください。断線やショートを引き起こす原因となり、接続機器を故障させることがあります。
- 必ず本体付属のアダプタを使用してください。また、電源電圧AC100Vで使用してください。電源に異なった電圧を加えると、火災や感電の原因となります。
- 電源ケーブルを破損するようなことはしないでください。また、破損しているケーブルを使用しないようにしてください。火災・感電の原因となります。
- ACアダプタを壁の中に埋め込まないでください。
- たこ足配線をしないでください。火災やショートの原因となります。
- 本機は屋内専用です。屋外で使用しないでください。
- 本機を設置する場合、次の場所を避けてください。
    - ♦ 直射日光の当たる場所
    - ♦ 火気の近くや高温多湿な場所
    - ♦ 温度変化が激しく、結露するような場所
    - ♦ 通気性、換気性が悪い場所
    - ♦ 本機に振動が直接伝わるような場所
    - ♦ 腐食性ガスが発生するような場所
    - ♦ 潮風にさらされるような場所
    - ♦ 強磁界が発生する物体の近く
    - ♦ じんあい、鉄粉などが発生する場所
    - ♦ 薬品、オイルミストが発生する場所
    - ♦ 雨、水のかかる場所

1.1. 取り扱い上のご注意

清掃について

- 本機表面の清掃は、水または中性洗剤を薄めた液を含ませた柔らかい布をよく絞り、軽く拭いてください。
- ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品や化学雑巾などでは拭かないでください。
- 水分を多く含んだ布などを使用しないでください。水分が本機の内部に入った場合、ショートや感電、火災の原因となります。

LAN(RJ45)ケーブルについて

- 設定によっては、一度に大量のデータ送受信を行う場合があります。使用している通信回線が対応できるか確認して、本機を接続してください。
- LANケーブルなどの接続したケーブルを使用して、持ち上げたりぶら下げたりしないでください。落下してけがの原因となります。また接続したポートやケーブルの破損･故障の原因となります。
- LANポートに指などの異物を入れないでください。故障や感電の原因となります。
- 本機とネットワークを接続するケーブルは、カテゴリー5以上のケーブルを使用してください。
- 本機とコンピュータを直接接続する場合は、クロスケーブルを使用してください。HUB等と接続する場合は、ストレートケーブルを使用してください。
- ケーブル長が100m未満になるようにしてください。
- ノイズの多いところではSTPケーブルを使用してください。
- 配線間違いのないように充分確認を行ってください。故障の原因となります。

注意

本機は、DHCP による IP アドレス自動割当には対応しておりませんので、手動で IP アドレスを設定してください。また、本機の IP アドレス・サブネットマスク・ゲートウェイの設定の際には、接続するネットワークの管理者と必ず相談のうえ、ネットワークにつながっているほかの機器の IP アドレスと同じにならないように、的確な IP アドレスを設定するようにしてください。誤った設定をした際、本機を認識できなかったり、接続したネットワークに障害をもたらしたりする恐れがあります。

ネットワーク障害などが起こった場合において、弊社では保証いたしません。お客様の責任においておこなうようにしてください。

☞ 6.3.2 ネットワーク設定（19ページ）

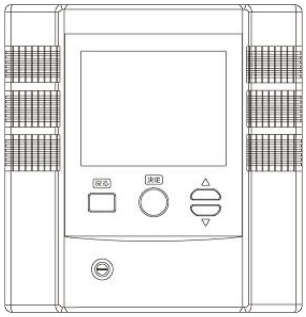
2. 呼称名称

ＦＴＥ－Ｄ０４－Ａ

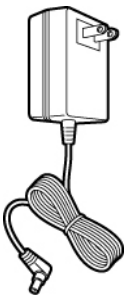
ＦＴＥ－Ｄ０４－Ｄ

	記号	内容
シリーズ	FTE	FTEシリーズ
入出力接点	D	デジタル
入力接点数	0	入力なし
出力接点数	4	出力4点
筐体色	A	Amber(アンバー)
	D	Dark gray(ダークグレイ)

2.1. 内容物の確認

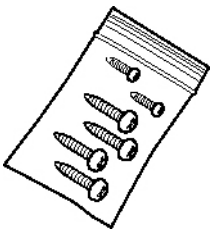


FTE－D04本体(1台)



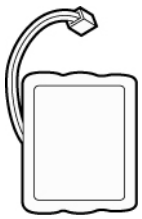
FTE-D04用ACアダプタ(1個)
（コード長　3m）

簡易マニュアル(1部)

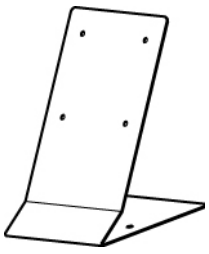


付属ネジM4×14(4本)
M3×6(2本)

オプション品



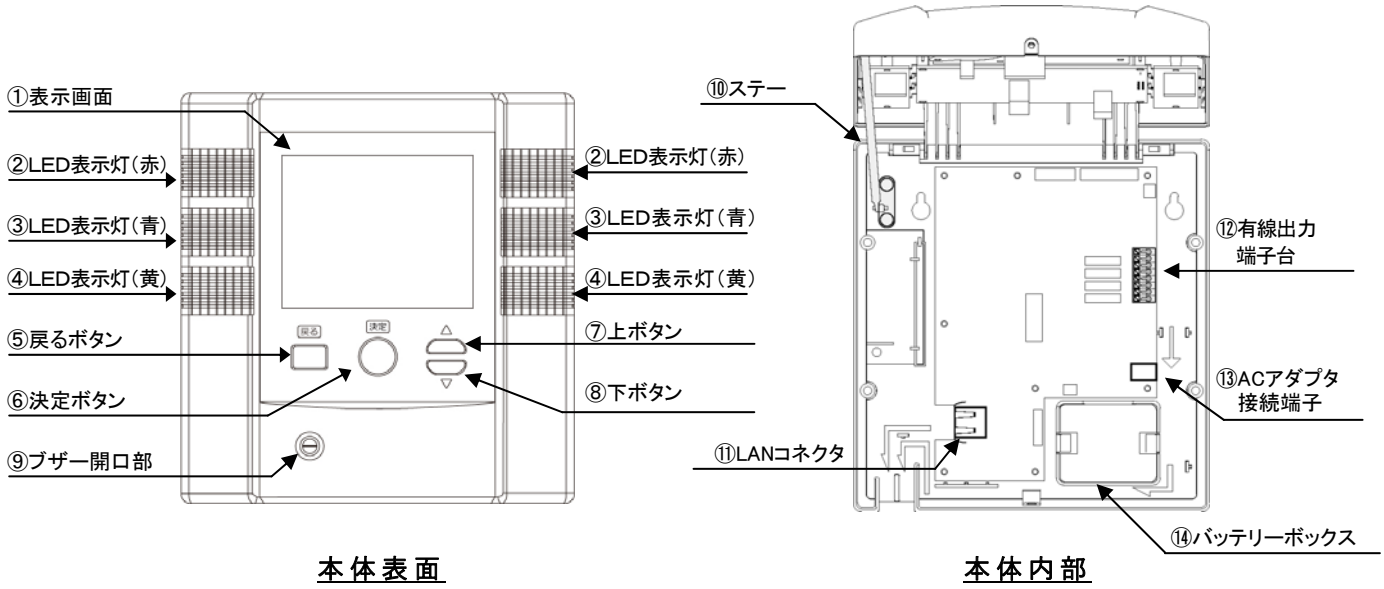
FTE-BT　バッテリー



FTE-ST　据え置きブラケット

3. 各部の名称と寸法

3.1. 各部の名称と働き

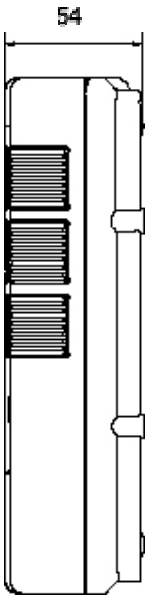


本体表面　　本体内部

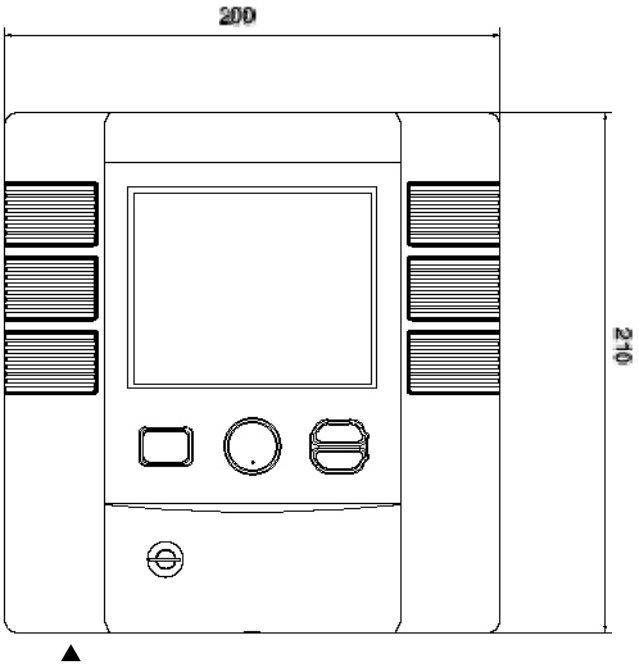
項目	内容
①表示画面	通常時は現在の日時、未読情報の有無、設定状態、異常状態を表示します。また、地震情報、緊急情報、ｅ情報、およびメニュー画面を表示します。
②LED 表示灯（赤）	赤色のＬＥＤが点灯・点滅します。
③LED 表示灯（青）	青色のＬＥＤが点灯・点滅します。
④LED 表示灯（黄）	黄色のＬＥＤが点灯・点滅します。
⑤戻るボタン	メニュー画面で各項目をキャンセルするとき、または前の画面に戻るときに使用します。表示灯やブザーが動作している報知状態のときに、戻るボタンを押すと、報知を止めることができます。地震情報のカウントダウン中に決定ボタンと同時に押すと、カウントダウンを中止します。
⑥決定ボタン	時刻表示時に２秒以上長押しするとメニュー画面に移ります。メニュー画面では各項目の決定時に使用します。地震情報のカウントダウン中に戻るボタンと同時に押すと、カウントダウンを中止します。
⑦上ボタン	メニュー画面で項目を選択する際に使用します。
⑧下ボタン	メニュー画面で項目を選択する際に使用します。
⑨ブザー開口部	ブザー音を鳴らします。
⑩ステー	フロントパネルを支えるために使用します。
⑪LAN コネクタ	LAN ケーブルを接続します。
⑫有線出力端子台	有線出力線を接続します。
⑬AC アダプタ接続端子	AC アダプタを接続します。
⑭バッテリーボックス	オプション品のバッテリーを入れます。

3.2. 外形寸法図

側面図

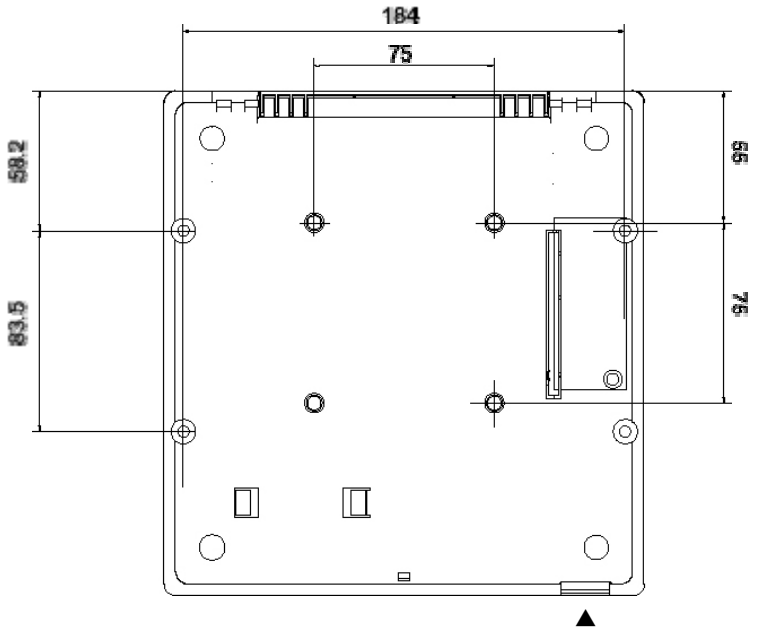


正面図



▲
ケーブル取出口

取付面（裏面）

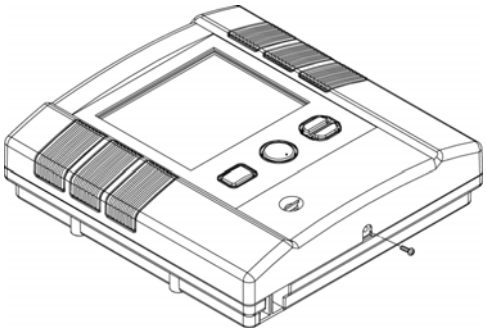


▲
ケーブル取出口

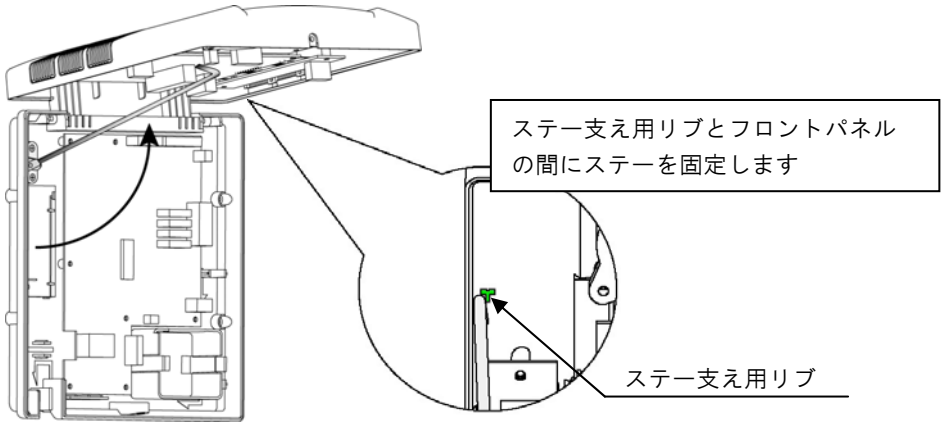
単位：mm

4. 取付方法

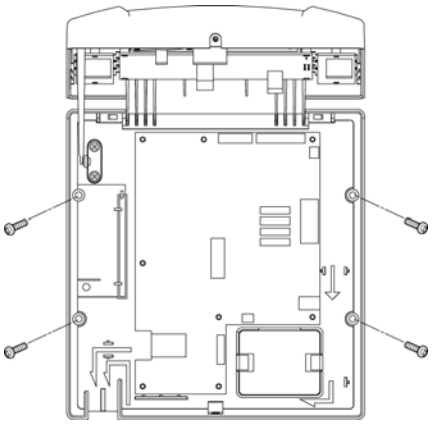
① 本体底部のネジ(M3×6 十字穴付バインドネジ)をはずします。



② 本体のフロントパネル（表示画面側）を開け、ステーで支えます。



③ 本体内部から付属のネジ(M4×14 十字穴付タッピンネジ)で固定します。

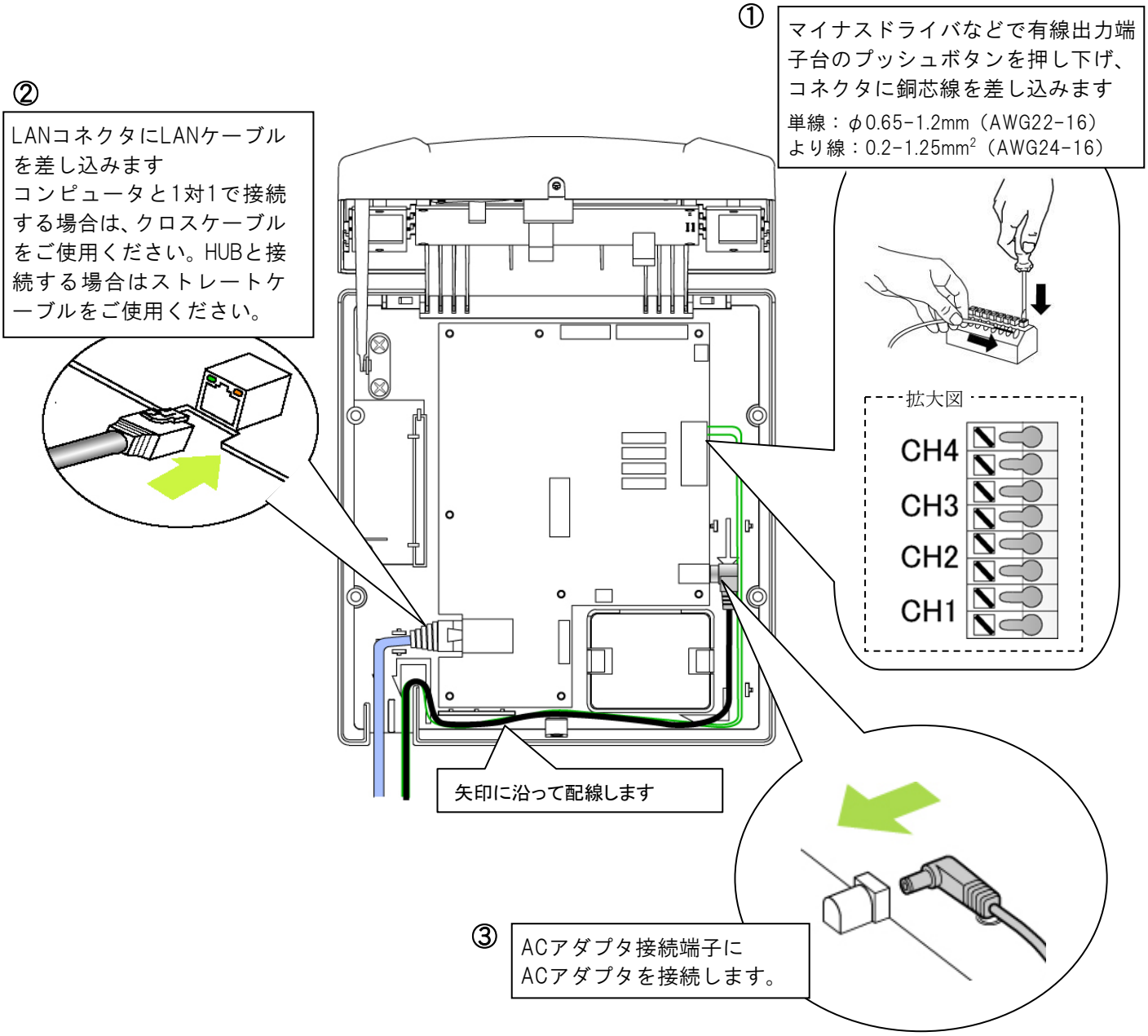


⚠ 注意

- 本体底部のネジは必ず指定のネジを使用してください。
- 取付けには付属のネジを使用してください。付属のネジを使用しない場合は、壁材に適したネジを使用してください。
- 必要に応じて、アンカーなどで取付け部の強度を十分に確保してください。
- LANケーブルや電源線を挟み込まないようにご注意ください。
- 基板にふれないでください。故障の原因となります。

5. 接続方法

5.1. 配線方法

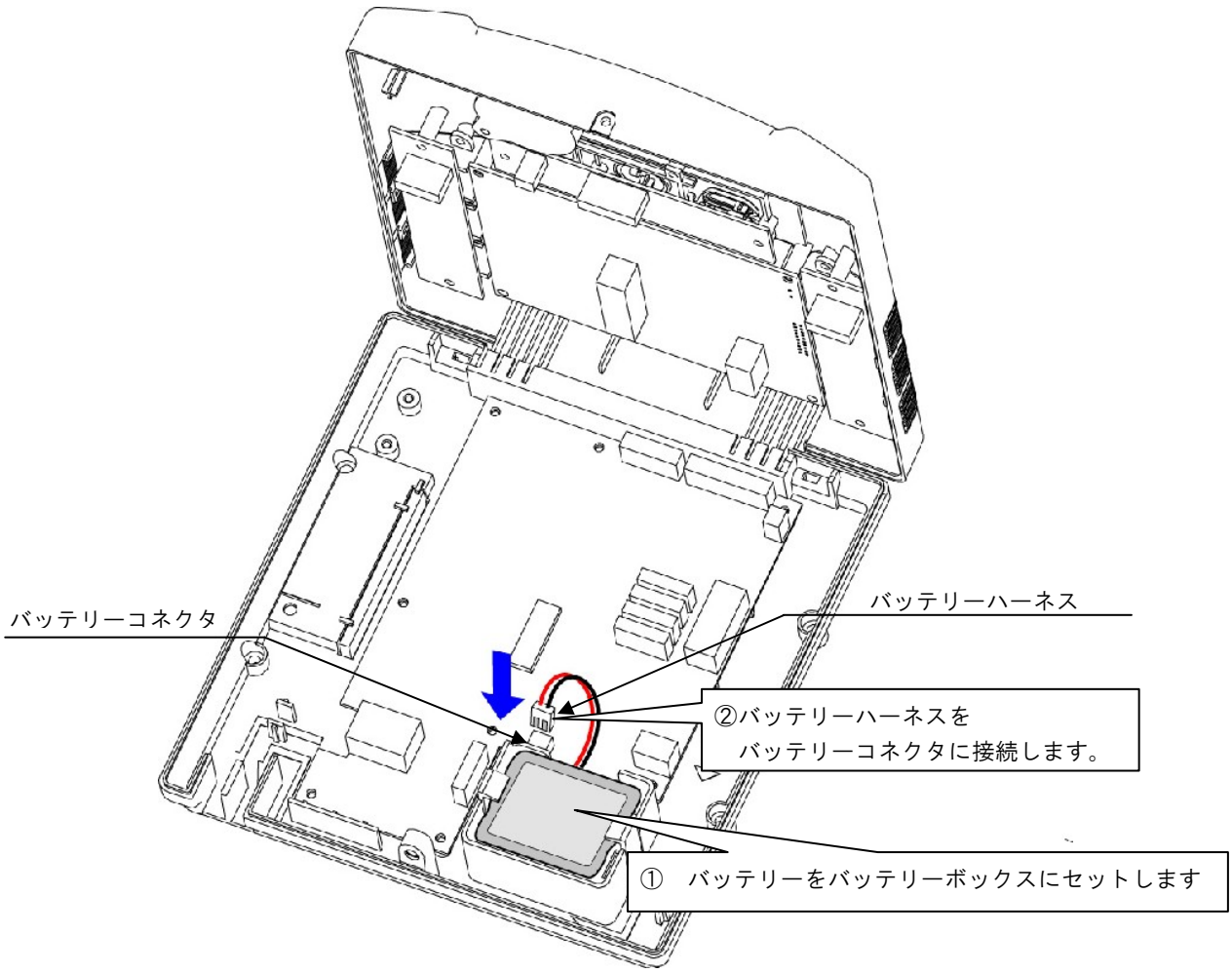


⚠ 注意

- 配線間違いがないように十分確認をおこなってください。火災や故障の原因となります。
- 配線は必ず電源を切った状態でおこなってください。感電や故障の原因となります。
- 有線出力端子台を強く押しすぎないでください。基板損傷の原因となります。

5.2. バッテリーを取付ける

オプションのバッテリーを取付けます。



Point

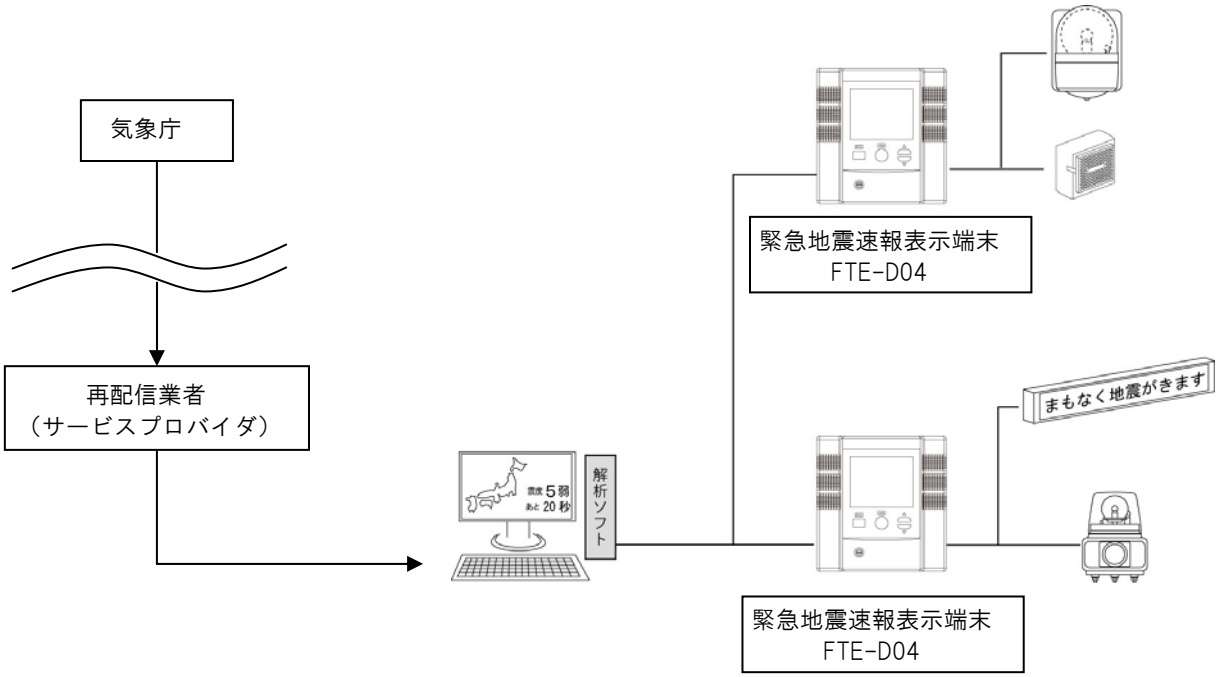
バッテリーを接続されたときは、必ず電池取付け設定をおこなってください。
電池取付け設定をおこなうことで、電池の交換時期をお知らせする機能が有効になります。

☞ 6.4.17 電池取付け設定をする（53ページ）

6. 使用方法

6.1. 緊急地震速報のシステム構成

本機は、再配信業者（サービスプロバイダ）の地震速報サーバから送られる地震情報を受け、その地震の震度と揺れまでの秒数を表示します。また、サービスプロバイダから送られる、津波情報や不審者情報などの緊急情報、天気情報や交通情報などのテキスト情報（以下　e 情報）を受信し表示することができます。



6.2. 本体機能概要

本機には下表の機能があります。

項目		内容
時刻補正機能		RTC(Real Time Clock)を用いて、一定精度に保たれた時間情報で動作します。また、NTP(Network Time Protocol)機能を利用することで、RTC の時刻補正をおこなうことが可能になります。NTP 利用の有無は Web 管理ツールから設定することができます。 初期設定では、時刻が正しく設定されていませんので、本機を導入される際、必ず Web 管理ツールから時刻補正を行ってください。NTP サーバの利用が可能な環境では、Web 管理ツールにより NTP サーバの設定を行うことで NTP による時刻補正機能が利用できるようになります。 NTP サーバから取得した時間と本機のシステム時間との差が 60 秒以上ある場合は、NTP サーバとの時刻補正はおこなわず、NTP 異常と表示画面に表示します。 その際は Web 管理ツールから時刻補正をおこなってください。 NTP サーバとの通信が途絶えた場合（タイムアウトした場合）は、RTC からシステムへ時刻補正をおこないます。 ※本機が使用する NTP プロトコルは SNTP V4 です。 ☞ 6.3.4 時刻設定（22 ﾍﾟｰｼﾞ） ☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(66 ﾍﾟｰｼﾞ)
報知機能	LED表示灯	点灯・点滅の動作をおこないます。点滅パターンは 3 種類あります。 赤点滅：120 回/分（ダブルフラッシュ） 青・黄点滅：60 回/分 異常報知：24 回/分（黄色のダブルフラッシュ）
	ブザー	ブザー鳴動をおこないます。鳴動パターンは 4 種類あります。 ① ピピッ　②ピピピ　③ピーーー　④ピッのみ 音量は大・小の 2 種類あります。 地震速報受信時は音量が大に固定されます。
	リレー接点出力	リレー接点出力 4 点の ON/OFF 制御を独立しておこなえます。 突入電流も容量の 2A を超えないようにしてください。
地震速報機能		地震速報サーバが配信する地震速報を受信し、予想震度と揺れまでの秒数をカウントダウンする画面を表示します。地震速報受信時は、Web 管理ツールで設定した、表示灯/ブザー/リレー接点出力による報知をおこないます。 カウントダウン中に緊急情報および e 情報の受信があった場合は、地震速報を優先し、画面遷移および報知をおこないません。その場合、緊急情報はカウントダウン終了後（0 秒表示後）に表示します。e 情報は自動的に表示されませんので、メニュー画面から内容を確認してください。 ☞6.4.8 緊急情報を受信したとき(45 ﾍﾟｰｼﾞ) ☞6.45 e 情報を受信したとき(42 ﾍﾟｰｼﾞ) 地震速報受信後のカウントダウン中、またはカウントダウン終了後に新たに地震速報を受信した場合は、受信した情報にしたがって再度報知およびカウントダウンをおこないます。地震速報を受信した際、地震の予想到達時刻が現時刻よりも過去になる場合、0 秒表示されます。1000 秒以上の場合、999 秒と表示し 999 秒以下になったときにカウントダウンを始めます。 受信した地震速報情報は地震履歴として受信した日時、震度を保存します。保存可能な最大件数（20 件）を超えた場合は、古いものから消去されます。 地震速報サーバの IP アドレスは 1 件のみ登録が可能です。 ☞ 6.4.4 緊急地震速報を受信したとき(40 ページ)

項目	内容
e 情報機能	サーバから配信されるテキスト情報を受信し、表示画面に表示します。情報受信時には Web 管理ツールで設定した内容にしたがって報知を行います。受信情報は最大件数(20 件)まで保存されます。最大件数を超えた場合、古いものから順に消去されます。サーバは IP アドレスで指定し、緊急情報を配信するサーバと合わせて最大 3 件まで登録が可能です。本機の電源が切れたとき、または再起動操作があると、受信済みの情報は消去されます。 ☞6.4.5 e 情報を受信したとき(42 ﾍﾟｰｼﾞ)
緊急情報機能	緊急情報サーバから配信される緊急情報を受信し、表示画面に表示します。情報受信時には Web 管理ツールで設定した内容にしたがって報知をおこないます。 受信情報は最大件数(20 件)まで保存されます。最大件数を超えた場合、古いものから順に消去されます。サーバは IP アドレスで指定し、e 情報を配信するサーバと合わせて最大 3 件まで登録が可能です。本機の電源が切れたとき、または再起動操作があると、受信済みの情報は消去されます。 ☞6.4.8 緊急情報を受信したとき(45 ﾍﾟｰｼﾞ)
外出モード機能	外出モードに設定すると、地震情報や各種情報を受信したときの表示灯・ブザー・リレー接点出力の動作を制限することができます。動作の設定は Web 管理ツールでおこないます。 ☞ 6.3.8 外出モード設定(33 ﾍﾟｰｼﾞ) ☞ 6.4.13 外出モードに設定する／外出モードを解除する(49 ﾍﾟｰｼﾞ)
強制消音設定機能	強制消音に設定すると、ブザーを鳴動しないようにすることができます。ただし、緊急地震速報受信時のみ、強制消音に設定しておいてもブザー鳴動をおこないます。 ☞ 6.4.14 強制消音に設定する／強制消音を解除する(50 ﾍﾟｰｼﾞ)
デモモード機能	地震速報を受信したときのシミュレーションをおこないます。 メニュー画面上で地震の震度と到達予想時間を設定すると、設定した内容の地震速報を受信した場合と同様の動作を行います。 ※リレー出力も動作しますのでご注意ください。 ☞ 6.4.15 デモモードで動作させる(51 ﾍﾟｰｼﾞ)
動作確認機能	メニュー画面上で表示灯とブザーの動作を確認することができます。 ☞ 6.4.16 動作確認する(52 ﾍﾟｰｼﾞ)
設定確認機能	ネットワーク設定内容を画面に表示します。 表示する項目は、「設置場所情報」,「IP アドレス」,「ネットマスク」,「デフォルトゲートウェイ」,「ホスト名」,「ドメイン名」,「地震速報サーバの IP アドレス」,「e 情報/緊急情報サーバの IP アドレス」,「本機のポート番号」です。 ☞ 6.4.17 本機の設定を確認する(53 ﾍﾟｰｼﾞ)
Web設定機能	Web 管理ツールによる本機の動作設定やネットワーク設定をおこないます ☞ 6.3 本体の設定をおこなう(18 ﾍﾟｰｼﾞ)
FTEマネージャ連携機能	ネットワーク経由で本機のネットワーク設定および、ファームウェアのアップデートを行うことができます。ネットワーク設定は、同じサブネットに存在する任意の端末に対して実行することができます。ファームウェアアップデートは、HTTP でアクセス可能な端末に対してのみ実行することができます。
バックライト制御機能	本機のいずれかのボタンが押されたとき、もしくは各種機能が動作時になったときに点灯します。各機能の操作が 10 秒間行われない場合は自動的にバックライトを消灯します。※地震のカウントダウン中は点灯を続けます。

項目	内容
クリア機能	地震速報受信後のカウントダウン中にクリアコマンドを受信したとき、または「決定」ボタンと「戻る」ボタンを同時に押したとき、表示灯・ブザー・リレー出力はすべて停止し、日時表示画面を表示して、報知をキャンセルします。
キャンセル機能	キャンセル報を受信したとき、キャンセル画面を表示するか、クリア機能を実行するか選択して動作させることが出来ます。キャンセル画面を表示するように設定した場合、同時に表示灯・ブザー・リレー出力も選択して動作させることができます。 ☞ 6.4.9 キャンセル報を受信したとき（46ページ）
自動復旧機能	地震速報のカウントダウン終了後、設定した秒数が経過したあとに、自動的に表示灯・ブザー・リレー出力を停止させ、日時表示画面を表示させることができます。 ☞ カウントダウン終了後の動作（26ページ）
定時報受信機能	定時報を受信すると、設定したリレー出力を動作させることができます。 ☞ 6.4.10 定時報を受信したとき（47ページ）
ハートビート機能	地震速報サーバから一定間隔で送信されるハートビートに対して応答を返します。設定した間隔にハートビートを受信しなければ異常と検知します。異常回数が設定値を超えると表示画面に 通信異常 と表示するとともに黄色のLED表示灯を点滅させます。ハートビート間隔および通信異常として検知する回数はWeb管理ツールより設定できます。 ☞ 6.3.9ハートビート設定（34ﾍﾟｼﾞ） ☞ 8.2表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(66ﾍﾟｼﾞ)
電池交換通知	電池を装着してから２年が経過したとき、表示画面に 電池交換 と表示します。電池交換 が表示されたら、電池交換をおこなってください。電池交換されたら、必ずメニューの電池交換画面で「電池取付け」を実行してください。「電池取付け」が実行されると電池寿命のカウントを始めます。電池を外した場合は電池交換画面で「電池取外し」を実行してください。実行すると電池装着時期がクリアされます。電池装着時期がクリアされた状態の場合、電池交換時期の通知はおこなわれません。 ☞ 5.2 バッテリーを取付ける(13 ページ) ☞ 6.4.18 電池取付け設定をする（54 ページ） ☞ 6.4.19 電池取外し設定をする（55 ページ） ☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(66 ﾍﾟｼﾞ)
電源監視機能	オプションのバッテリーを装着時に、停電時や AC アダプタが正しく接続されていない場合など、電源動作からバッテリー動作に切り替わったときに、表示画面に 電源異常 と表示します。 ☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(66 ﾍﾟｼﾞ)

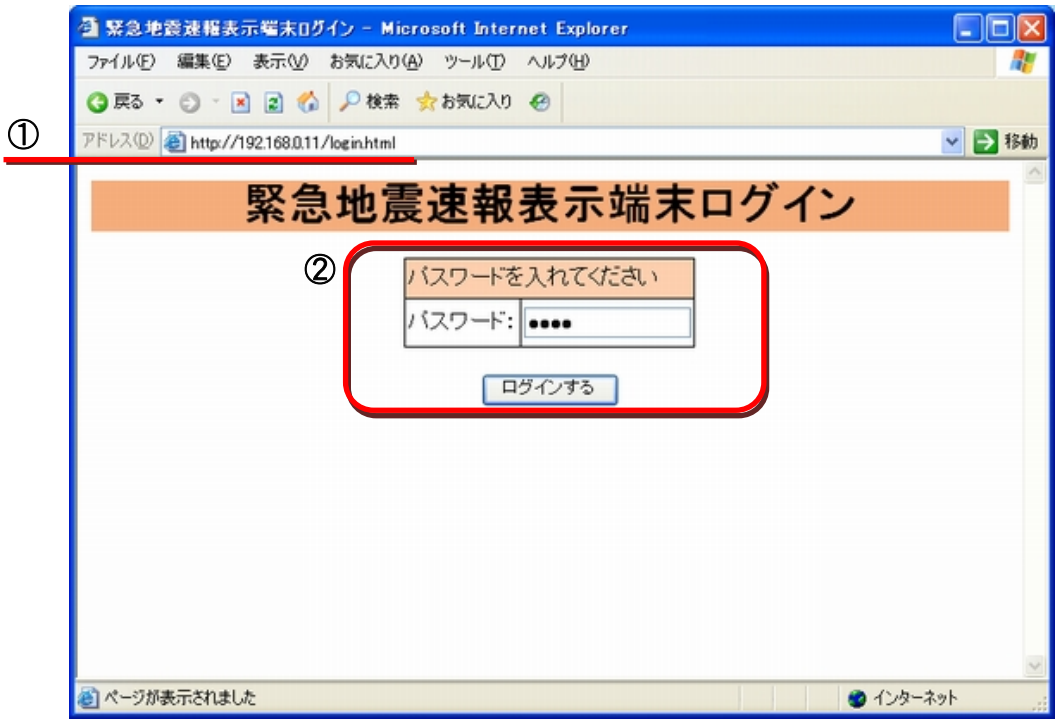
6.3. 本体の設定をおこなう

本体の設定はすべてWeb管理ツールによりおこないます。
JavaScriptを有効にしたブラウザで設定をおこなってください。
*本機では快適に操作していただくために、「Internet Explorer 6」以降のブラウザのご利用を推奨しています。

6.3.1. ログイン

①ブラウザのアドレスに本機の IP アドレスを入力しアクセスします。するとログイン画面が表示されます。
※　IP アドレスが初期設定のとき、「http://192.168.0.11/login.html」と入力します。
※　本機の IP アドレスを確認するには、メニュー画面から本体設定確認を選択してください。
☞ 6.4.3 メニュー画面を表示する（39 ページ）☞ 6.4.17 本機の設定を確認する（53 ページ）

②ログイン画面で、パスワードを入力して[ログインする]ボタンをクリックすると、ネットワーク設定画面が表示されます。
※　工場出荷時のパスワードは「root」（半角文字）に設定されています。パスワードは、ユーザ認証設定で変更できます。
☞ 6.3.3 ユーザ認証設定（21 ページ）



注意

- ログイン状態で１0分間なにも操作がされなければ、自動的にログアウトされます。その際は、再度ログインをしてください。
- すでに他のユーザがログインしている場合は、ログインできません。

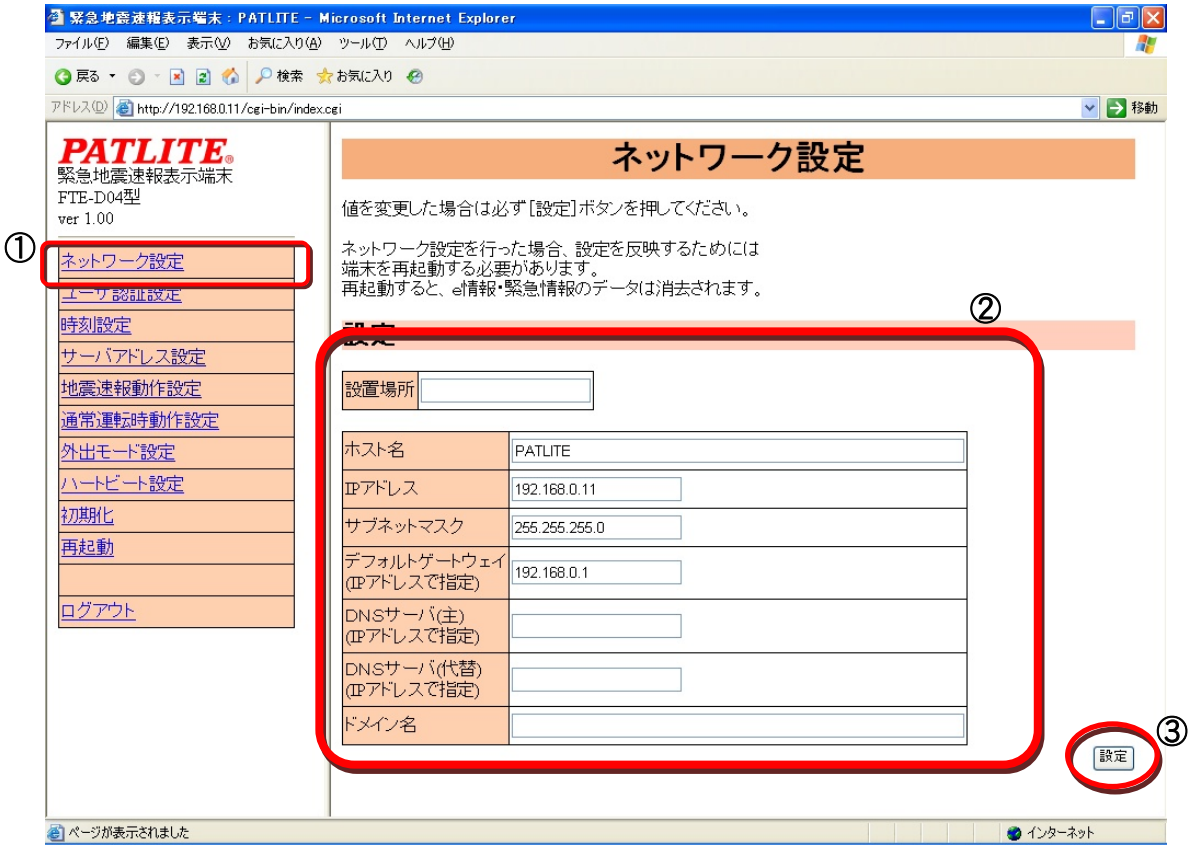
6.3.2. ネットワーク設定

本機のネットワーク設定をおこないます。

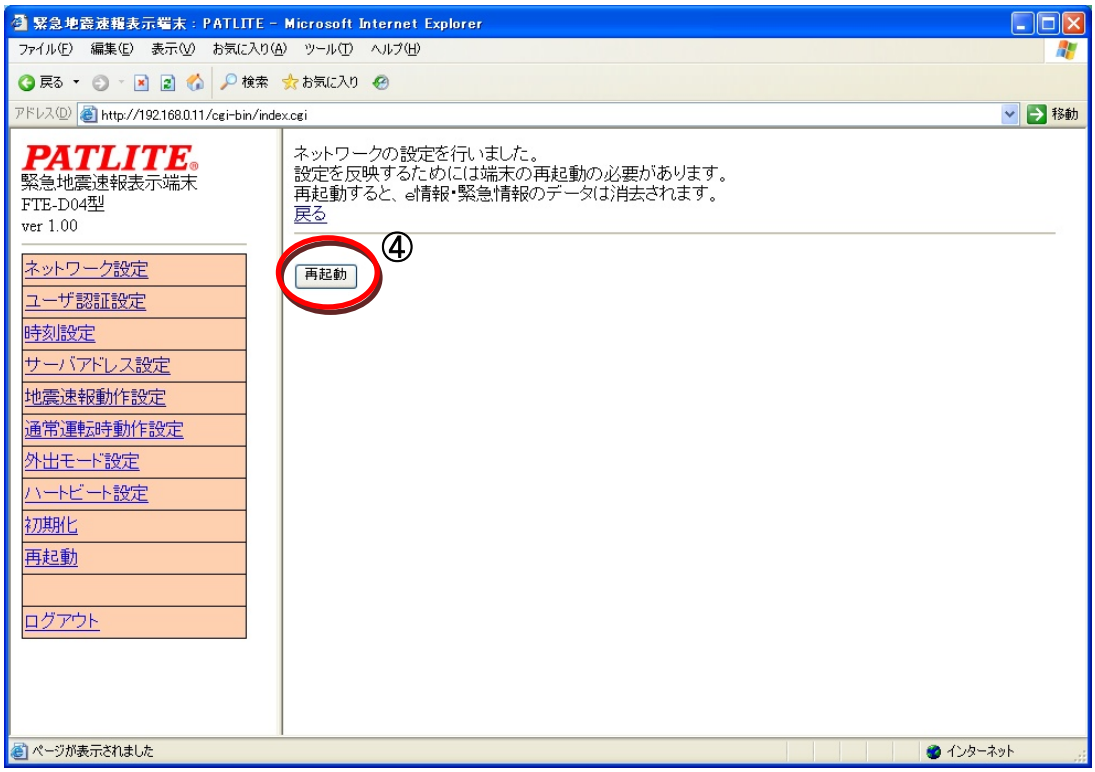
項目	内容	初期値	入力文字制限
設置場所	本機の設置場所を設定します。	空欄	最大文字数は 全角９文字
※ホスト名	本機のホスト名を設定します。同一ネットワーク内で複数の端末をご使用の場合は、一意になるホスト名に設定してください。	fted04	先頭は英字 指定 末尾は英数字 指定 英数字・ハイフン使用可 文字数：1～63文字
※IPアドレス	本機のIPアドレスを設定します。接続されるネットワーク内で一意になるアドレスを設定してください。	192.168.0.11	文字数：7～15文字
※サブネットマスク	サブネットマスク値を設定します。	255.255.255.0	文字数：7～15文字
デフォルト ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。	空欄	文字数：7～15文字
DNSサーバ（主）	DNSサーバのIPアドレスを設定します。	空欄	文字数：7～15文字
DNSサーバ（代替）	代替DNSサーバのIPアドレスを設定します。主DNSサーバがアクセスできない場合に使用します。	空欄	文字数：7～15文字
ドメイン名	本機を接続するネットワークのドメイン名を設定します。	空欄	先頭は英字 指定 末尾は英数字 指定 英数字・ハイフン使用可 文字数：0～61文字

> **注意**　先頭に　※　が付いている項目は必須です。必ず設定してください。
> ホスト名とドメイン名を両方設定されるときは、ホスト名とドメイン名の合わせた長さが、62文字までとなります。

① ネットワーク設定を選択します。
② 本機の設定をおこないます。
③ 「設定ボタン」を押します。



④　「再起動」ボタンを押します。再起動後、設定した値が反映されます。



注意

- 本機は、DHCP による IP アドレス自動割当には対応しておりません。
- ネットワークにつながっているほかの機器の IP アドレスと同じにならないように、的確な IP アドレスを設定するようにしてください。
- 誤った設定をした際、本機を認識できなかったり、接続したネットワークに障害をもたらしたりする恐れがあります。
- IP アドレスを変更した場合、それ以降は新たに設定した IP アドレスでログインしてください

現在設定されているIPアドレスを確認したいときは、メニュー画面から本体設定確認を選択してください。

☞ 6.4.3 メニュー画面を表示する（39 ページ）☞ 6.4.17 本機の設定を確認する（53 ページ）

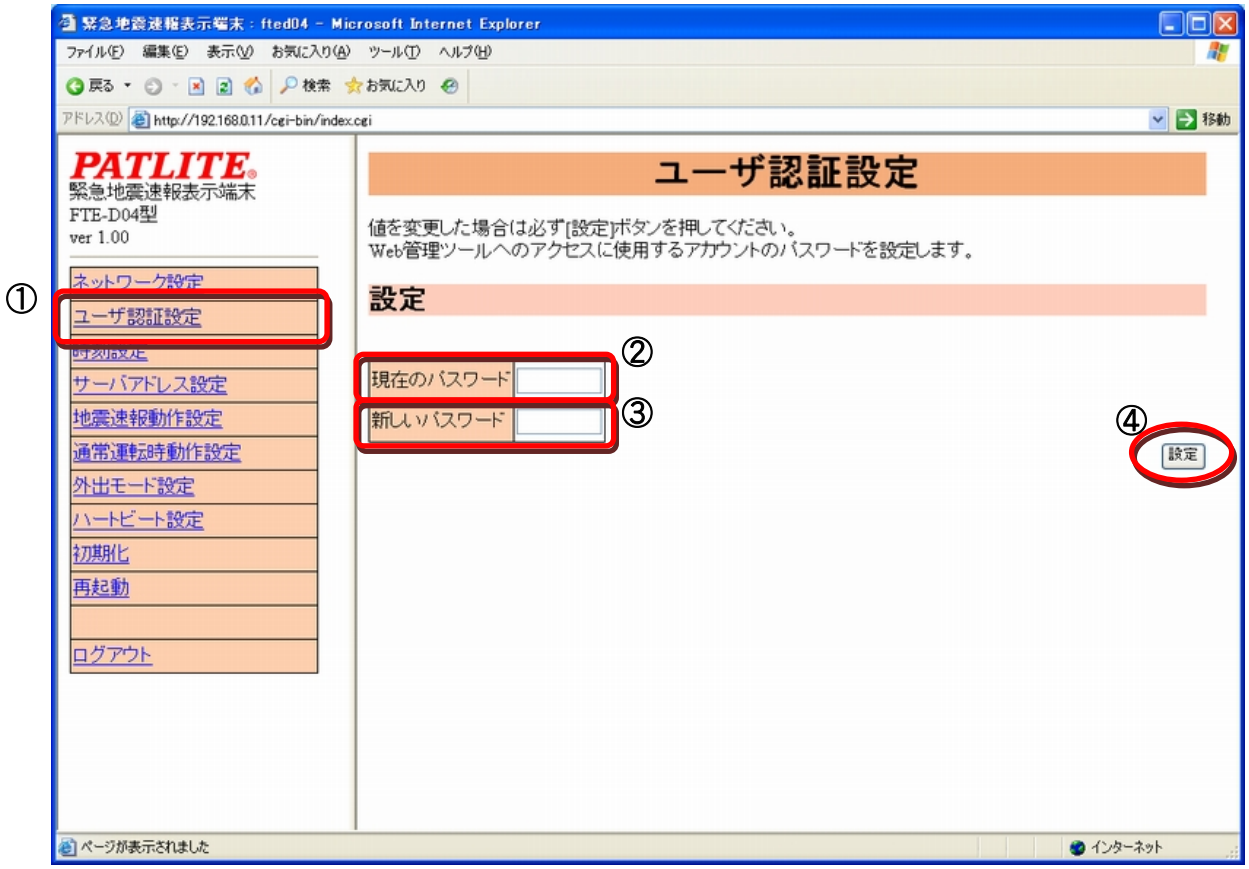
注意

再起動すると、これまでに受信したｅ情報/緊急情報のデータが消去されますのでご注意ください。

6.3.3. ユーザ認証設定

ログインする際のパスワードを設定できます。
初期設定では「root」（半角文字）となっていますので必ず変更するようにしてください。

① ユーザ認証設定を選択します。
② 現在お使いのパスワードを入力します。
③ 新しく設定したいパスワードを入力します。（入力可能文字数：半角1～8文字）
④ 「設定」ボタンを押します。

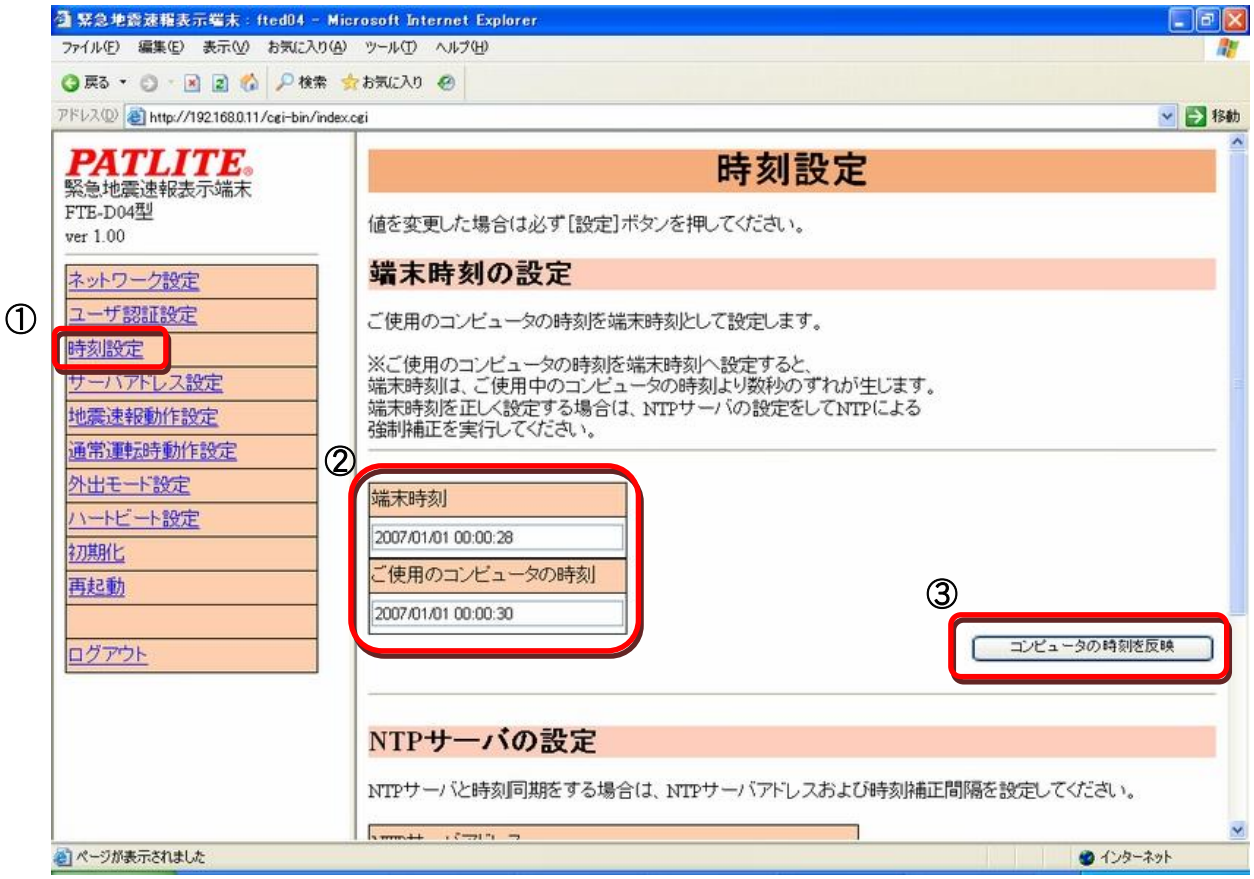


6.3.4. 時刻設定

● 端末時刻の設定

現在お使いのコンピュータの時刻を端末時刻（本機の時刻）として設定します。

① 時計設定を選択します。
② 端末時刻と現在ご使用になっているコンピュータの時計が表示されます。
③ コンピュータの時刻に合わせたいときは、「コンピュータの時刻を反映」ボタンを押します。



Point

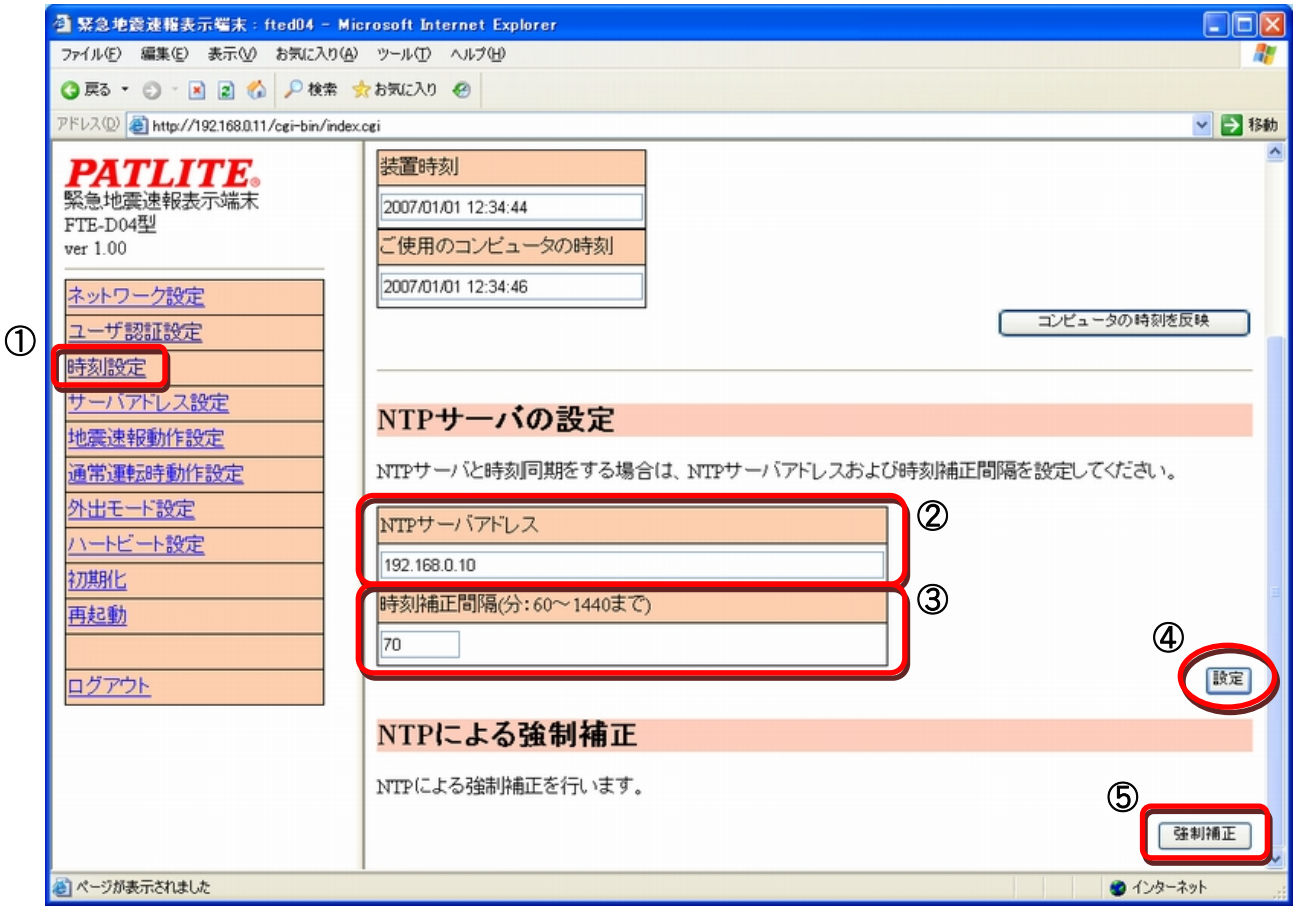
コンピュータの時刻を反映される場合、コンピュータの時刻と数秒ずれる場合があります。
正確に時刻を合わせるには、NTPサーバを設定してください。

☞ ●NTPサーバの設定/NTPによる強制補正（23ﾍﾟｰｼﾞ）

●NTPサーバの設定/NTPによる強制補正

NTPサーバの設定をおこないます。
NTPサーバを利用して、NTPサーバの時刻と本機の時刻を同期するときは、必ず設定してください。
設定されていないときはNTPサーバとの時刻同期はおこなわれません。

① 時刻設定を選択します。
② 同期させたいNTPサーバのホスト名、もしくはIPアドレスを設定します。
③ NTPサーバと同期する間隔を設定します。設定された時間ごとにNTPサーバと時刻同期をおこないます。
④ 「設定」ボタンを押します。
⑤ 本機の時刻を強制的にNTPサーバと同期させたいときは、「強制補正」ボタンを押してください。



Point

●NTP サーバから取得した時間と本機のシステム時間との差が 60 秒以上ある場合は、NTP サーバとの時刻補正はおこなわず、NTP 異常と液晶画面に表示します。その場合、コンピュータの時刻を反映させるか NTP による強制補正をおこなって本機のシステム時間を合わせてください。

●NTP異常時には、NTPサーバへ60秒毎に通信を行ないます。正常に時刻を取得できれば、以降は設定した時間毎に通信をおこないます。

6.3.5. サーバアドレス設定

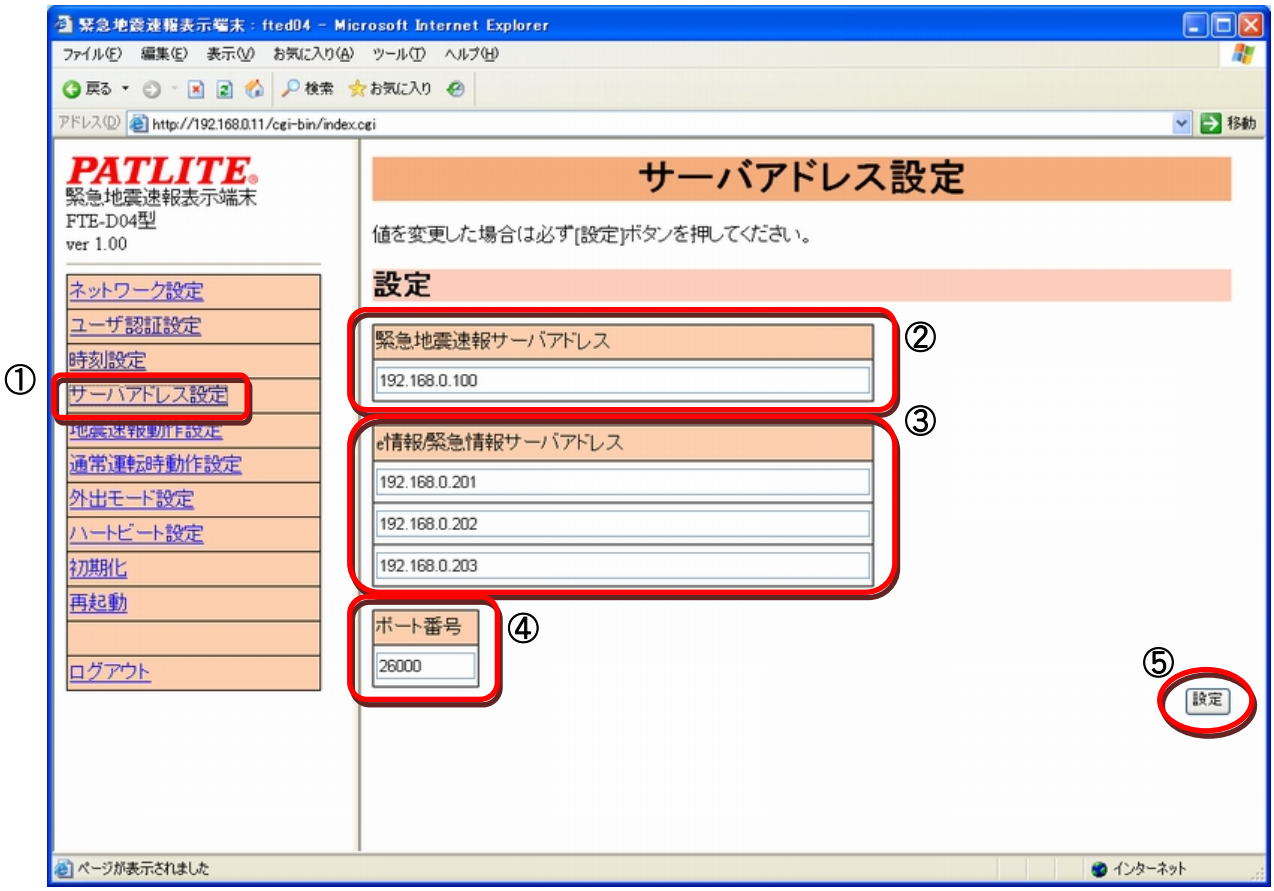
緊急地震速報サーバとｅ情報/緊急情報サーバのIPアドレスを設定します。ここで設定したサーバからのみ情報を受信します。本機のポートNo.も設定します。

Point

・緊急地震速報サーバは1件のみ登録ができます。

・ｅ情報/緊急情報サーバアドレスは、合わせて最大3件まで登録できます。

① サーバアドレス設定を選択します。
② 緊急地震速報サーバアドレスのIPアドレスを設定します。（1件のみ）
③ ｅ情報/緊急情報サーバアドレスのIPアドレスを設定します。（最大3件まで）
④ 情報を受信する為の、本機のポート番号を設定します。
⑤ 「設定」ボタンを押します。



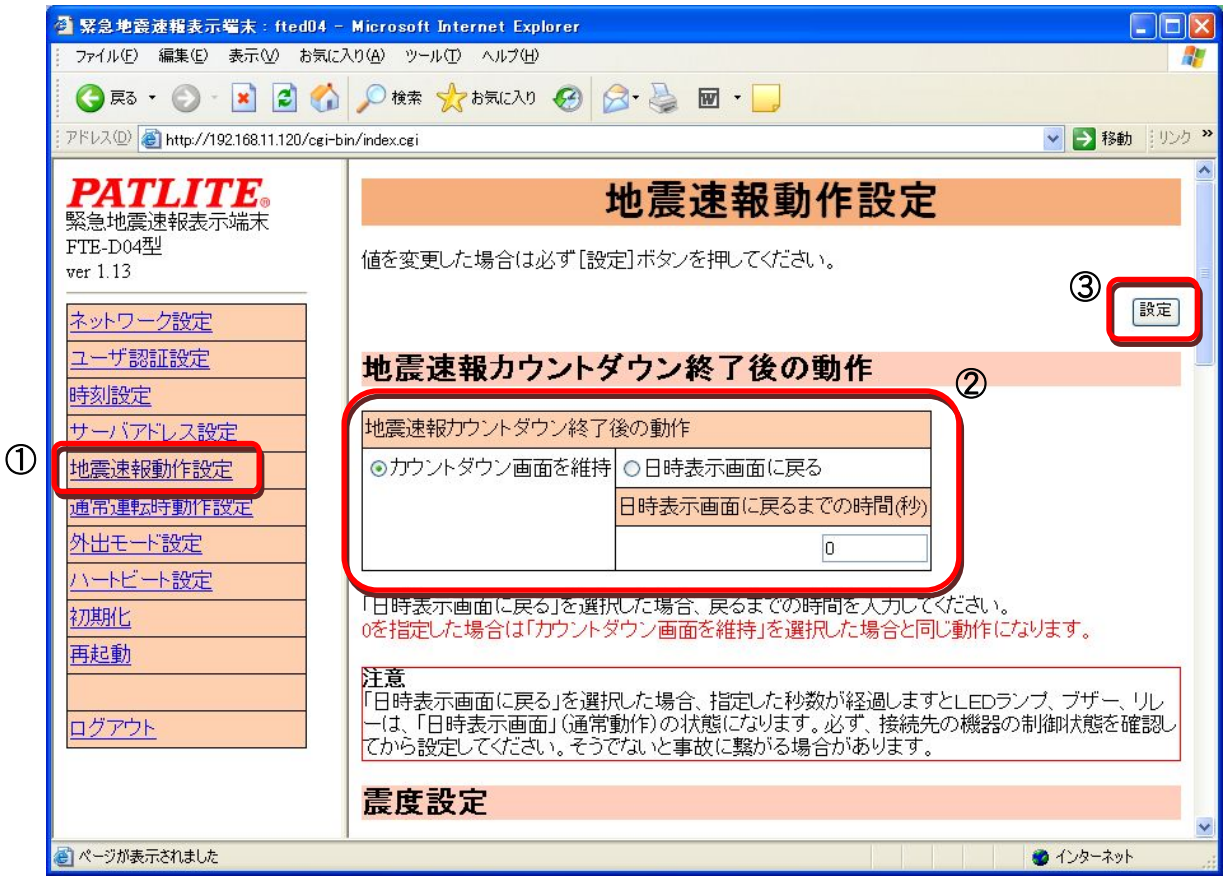
6.3.6. 地震速報動作設定

緊急地震速報を受信したときの本機の動作と、地震速報カウントダウン終了後の動作を設定します。
カウントダウン終了後の動作設定を行い、次に震度0から7までの10段階の震度を、弱・中・強・激の4段階に振り分けます。最後に、4段階に振り分けた震度ごとに、地震速報を受信したときの動作を設定します。

●地震速報カウントダウン終了後の動作

地震速報のカウントダウン終了後に、カウントダウン画面表示を維持させるか、日時表示画面を表示させるか選択します。

① 地震速報動作設定を選択します。
② カウントダウン画面を維持させるか、日時表示画面に戻るかを選択します。日時表示画面に戻るを選択されたときは、カウントダウン終了後、日時表示画面に戻るまでの時間も設定してください。
③ 「設定」ボタンを押します。

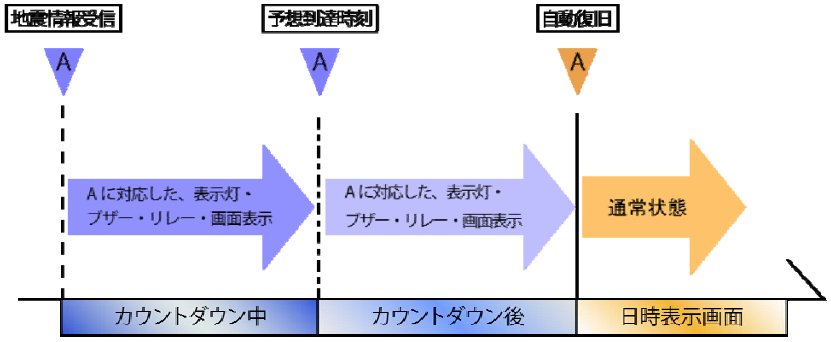


注意　日時表示画面に戻るを選択されても、日時表示画面に戻るまでの時間を0秒に設定すると、カウントダウン画面を維持を選択したときと同じ動作をおこないます。

地震速報カウントダウン終了後の動作

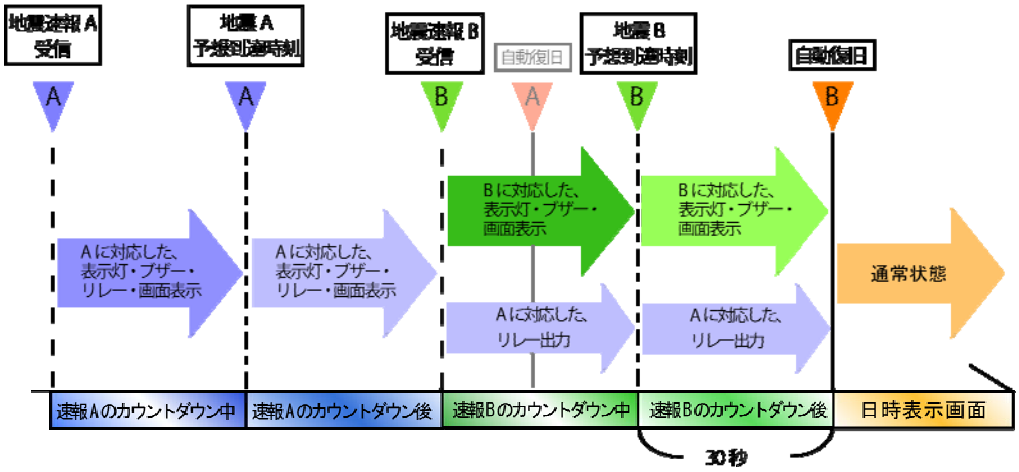
例1）日時表示画面に戻るまでの時間を30秒に設定している状態で地震速報Aを受信したとき

カウントダウン終了後30秒で通常状態に戻ります。



例2）日時表示画面に戻るまでの時間を30秒に設定し、地震速報Aのカウントダウン終了後30秒が経過する前に地震速報Bを受信したとき。

地震速報Bのカウントダウン終了後30秒で通常状態に戻ります。ただし、リレーのみそれまでの動作を維持します。



●震度設定

① 震度弱・中・強・激のそれぞれの範囲を設定します。震度は、重ならず連続するように設定してください。

注意

- 震度の振り分けは連続するように設定してください。
- 同じ震度が重複しないように設定してください。
- 必ず弱・中・強・激の4段階になるように設定してください。

●動作設定

① 震度設定で設定した震度ごとに表示灯・ブザー・リレー出力の設定をおこないます。

② リレーを動作させる範囲を残り秒数で設定します。入力可能な値は300～0までです。到着までの秒数が大きいほうを先に入力してください。

③ 「設定」ボタンを押して、設定した項目を有効にします。

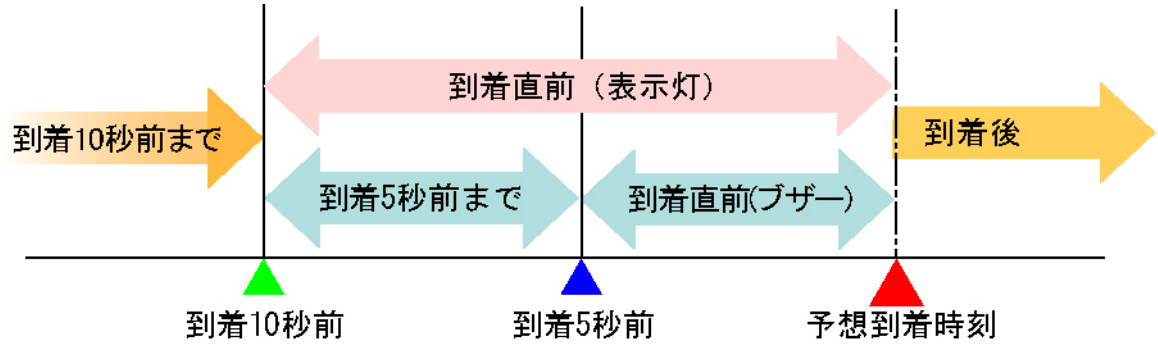
①表示灯/ブザー/リレー出力の各設定項目

表示灯	到着10秒前まで	点灯方法	点灯しない	表示灯を点灯させません
			赤点灯	表示灯の赤を点灯させます
			赤点滅	表示灯の赤を点滅させます
			黄点灯	表示灯の黄を点灯させます
			黄点滅	表示灯の黄を点滅させます
			青点灯	表示灯の青を点灯させます
			青点滅	表示灯の青を点滅させます
			状態維持	受信時の表示灯の動作を維持します
	到着直前	点灯方法	点灯しない	表示灯を点灯させません
			赤点灯	表示灯の赤を点灯させます
			赤点滅	表示灯の赤を点滅させます
			黄点灯	表示灯の黄を点灯させます
			黄点滅	表示灯の黄を点滅させます
			青点灯	表示灯の青を点灯させます
			青点滅	表示灯の青を点滅させます
	到着後	点灯方法	消灯	表示灯を消灯させます
			秒後消灯	ｎ秒後消灯で入力した秒数後消灯します
			状態維持	表示灯の動作状態を維持します
		ｎ秒後消灯	入力可能範囲 0～600	秒後消灯が選択されているときに表示灯を 消灯するまでの秒数を設定します
ブザー	到着10秒前まで	鳴動方法	鳴らない	ブザーを鳴動させません
			ピピッ	ブザーパターン“ピピッ”で鳴動させます
			ピピピ	ブザーパターン“ピピピ”で鳴動させます
			ピーーー	ブザーパターン“ピーーー”で鳴動させます
			ピッのみ	ブザーパターン“ピッのみ”で鳴動させます
	到着5秒前まで	鳴動方法	鳴らない	ブザーを鳴動させません
			ピピッ	ブザーパターン“ピピッ”で鳴動させます
			ピピピ	ブザーパターン“ピピピ”で鳴動させます
			ピーーー	ブザーパターン“ピーーー”で鳴動させます
			ピッのみ	ブザーパターン“ピッのみ”で鳴動させます
	到着直前	鳴動方法	鳴らない	ブザーを鳴動させません
			ピピッ	ブザーパターン“ピピッ”で鳴動させます
			ピピピ	ブザーパターン“ピピピ”で鳴動させます
			ピーーー	ブザーパターン“ピーーー”で鳴動させます
			ピッのみ	ブザーパターン“ピッのみ”で鳴動させます
	到着後	鳴動方法	停止	ブザーを停止させます
			秒後停止	到着直前で鳴動させていたブザーを 入力した秒数後に停止させます
			状態維持	到着直前で鳴動させていたブザーの状態を 維持します
		ｎ秒後停止	入力可能範囲 0～600	秒後停止が選択されているときに ブザーを停止するまでの秒数を設定します

リレー出力	1	到着□秒～ 到着□秒まで 入力可能範囲 300～0	操作方法	しない	リレー出力1を動作させません
				する	地震到着までの時間が設定範囲内のとき、 リレー出力1を動作させます
				状態維持	受信時のリレー出力1の状態を維持します
		到着後	操作	秒後OFF	地震到着時にリレー出力１が動作しているとき、入力した秒数後に動作を止めます
				秒後ON	地震到着時にリレー出力１が動作していないとき、入力した秒数後に動作させます
				状態維持	地震到着時のリレー出力1の動作状態を 維持します
			秒数	入力可能範囲 0～600	「秒後OFF」、「秒後ON」を選択しているとき、 入力した値が有効になります。

リレー出力２以降もリレー出力１と同様に設定してください。

設定の有効になる範囲



Point　予想到着時刻が現時刻よりも過去の地震速報を受信したときは、受信した時点で到着後の動作をおこないます。

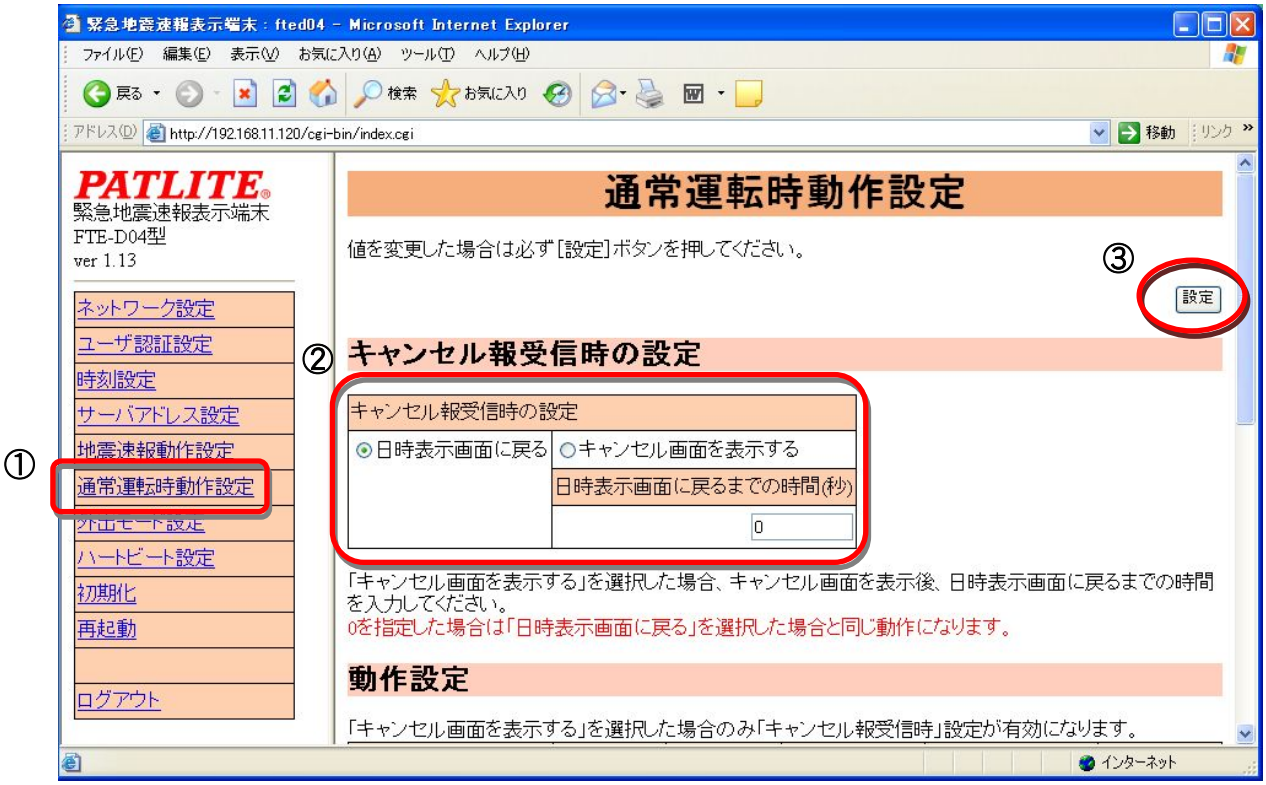
Point　リレー出力の操作方法を「する」にしている時、「到着まで0秒～0秒」に設定すると、地震速報の受信と同時にリレーを動作させることができます。

6.3.7. 通常運転時動作設定

キャンセル報受信時にキャンセル画面を表示させるか、日時表示画面（通常運転状態）に戻すか、選択します。通常動作時、ｅ情報受信時、緊急情報受信時、キャンセル報受信時、定時報受信時の各動作を設定します。

●キャンセル報受信時の設定

① 通常運転時動作設定を選択します。
② キャンセル報を受信したとき、日時表示画面に戻るか、キャンセル画面を表示するか選択します。
③ 「設定」ボタンをおして設定項目を有効にします。



Point

日時表示画面に戻る に設定しているときにキャンセル報を受信すると、日時表示画面を表示し、通常運転状態になります。

キャンセル画面を表示する に設定しているときにキャンセル報を受信すると、キャンセル画面を表示し、表示灯・ブザー・リレーは設定した動作をおこないます。

●動作設定

① 通常動作時の設定をします。正常に動作しているときに表示灯の青色を動作させるか設定できます。
② ｅ情報受信時の設定をします。ｅ情報受信時に表示灯・ブザー・リレー出力を動作させるか設定できます。
③ 緊急情報受信時の設定をします。緊急情報受信時に表示灯・ブザー・リレー出力を動作させるか設定できます。
④ キャンセル報受信時の設定をします。キャンセル報受信時に表示灯・ブザー・リレー出力を動作させるか設定できます。
⑤ 定時報受信時の設定をします。定時報受信時にリレー出力を動作させるか設定できます。
⑥ 「設定」ボタンをおして設定項目を有効にします。

①通常動作時設定項目

表示灯	点灯方法	点灯しない	点灯しません
		青点灯	表示灯の青を点灯させます
		青点滅	表示灯の青を点滅させます

注意 通常動作時設定項目で選択した点灯方法（青点灯または青点滅）と、ｅ情報受信時・緊急情報受信時・キャンセル報受信時・地震速報受信時の点灯方法と同じ動作は設定できません。

注意 キャンセル報受信時設定は、キャンセル報受信時の設定で「キャンセル画面を表示する」を設定している時に有効になります。

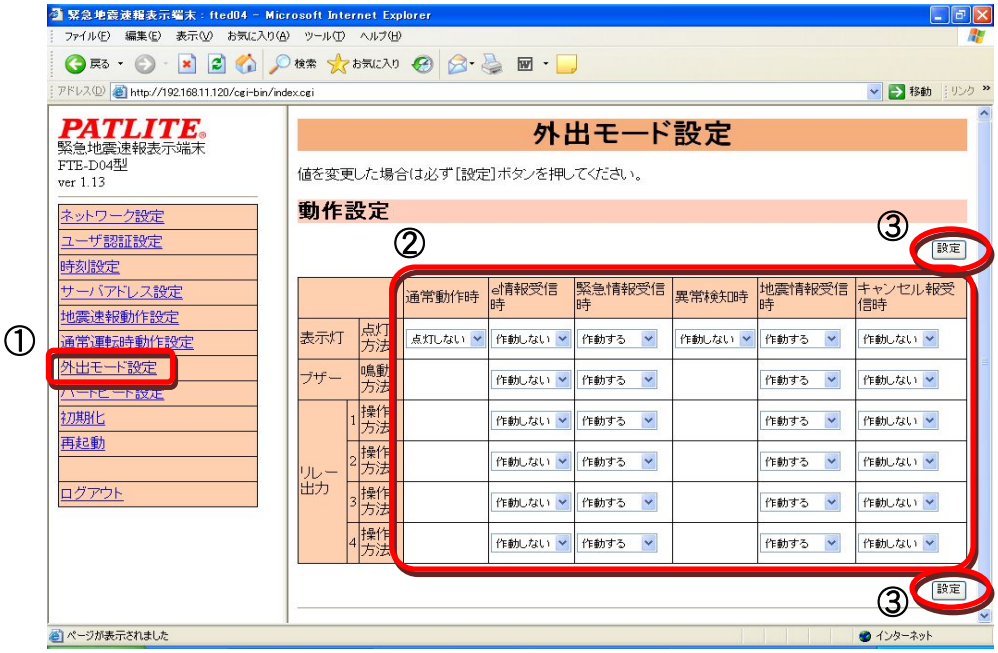
②ｅ情報受信時／③緊急情報受信時／④キャンセル報受信時／⑤定時報受信時　設定項目
（定時報受信時設定項目はリレー出力のみです）

表示灯		点灯方法	点灯しない	表示灯を点灯させません
			赤点灯	表示灯の赤を点灯させます
			赤点滅	表示灯の赤を点滅させます
			黄点灯	表示灯の黄を点灯させます
			黄点滅	表示灯の黄を点灯させます
			青点灯	表示灯の青を点滅させます
			青点滅	表示灯の青を点灯させます
			状態維持	受信時の表示灯の動作を維持します
ブザー		鳴動方法	鳴らない	ブザーを鳴動させません
			ピピッ	ブザーパターン“ピピッ”で鳴動させます
			ピピピ	ブザーパターン“ピピピ”で鳴動させます
			ピーーー	ブザーパターン“ピーーー”で鳴動させます
			ピッのみ	ブザーパターン“ピッのみ”で鳴動させます
		音量	大	ブザーの音量を大にします
			小	ブザーの音量を小にします
		ｎ秒後停止	入力可能範囲 0～600	ブザーを鳴動させるように設定したいたとき、 入力した値の秒数間動作させ、その後 停止させます。
リレー出力	1	操作方法	しない	リレー出力１を動作させません
			する	リレー出力１を動作させます
			状態維持	受信時のリレー出力の動作を維持します
		ｎ秒後停止	入力可能範囲 0～600	操作方法で「する」を選択しているとき、入力した値の秒数間動作させ、その後停止させます 0に設定すると動作を継続します。
	2	操作方法	しない	リレー出力２を動作させません
			する	リレー出力２を動作させます
			状態維持	受信時のリレー出力の動作を維持します
		ｎ秒後停止	入力可能範囲 0～600	操作方法で「する」を選択しているとき、入力した値の秒数間動作させ、その後停止させます 0に設定すると動作を継続します。
	3	操作方法	しない	リレー出力３を動作させません
			する	リレー出力３を動作させます
			状態維持	受信時のリレー出力の動作を維持します
		ｎ秒後停止	入力可能範囲 0～600	操作方法で「する」を選択しているとき、入力した値の秒数間動作させ、その後停止させます 0に設定すると動作を継続します。
	4	操作方法	しない	リレー出力４を動作させません
			する	リレー出力４を動作させます
			状態維持	受信時のリレー出力の動作を維持します
		ｎ秒後停止	入力可能範囲 0～600	操作方法で「する」を選択しているとき、入力した値の秒数間動作させ、その後停止させます 0に設定すると動作を継続します。

6.3.8. 外出モード設定

外出モード設定時の本機の動作を設定します。“作動しない”に設定すると、地震速報動作設定および通常運転時動作設定が無効になり、動作しなくなります。“作動する”に設定すると地震速報動作設定および通常運転時動作設定が有効になり、設定した動作をおこないます。

① 外出モード設定を選択します
② 外出モード設定時の動作設定をします。
③ 「設定」ボタンを押して設定した項目を有効にします。



通常動作時設定

表示灯	点灯方法	点灯しない	表示灯を点灯させません
		青点灯	表示灯の青を点灯させます
		青点滅	表示灯の青を点滅させます

異常検知時設定

表示灯	点灯方法	点灯しない	表示灯を点灯させません
		黄色点滅	異常報知動作をおこないます

e情報受信時設定／緊急情報受信時設定／地震速報受信時設定／キャンセル報受信時

表示灯	点灯方法		作動しない	表示灯の動作設定を無効にします
			作動する	表示灯の動作設定を有効にします
ブザー	鳴動方法		作動しない	ブザーの動作設定を無効にします
			作動する	ブザーの動作設定を有効にします
リレー出力	1	操作方法	作動しない	リレー出力１の動作設定を無効にします
			作動する	リレー出力１の動作設定を有効にします
	2	操作方法	作動しない	リレー出力２の動作設定を無効にします
			作動する	リレー出力２の動作設定を有効にします
	3	操作方法	作動しない	リレー出力３の動作設定を無効にします
			作動する	リレー出力３の動作設定を有効にします
	4	操作方法	作動しない	リレー出力４の動作設定を無効にします
			作動する	リレー出力４の動作設定を有効にします

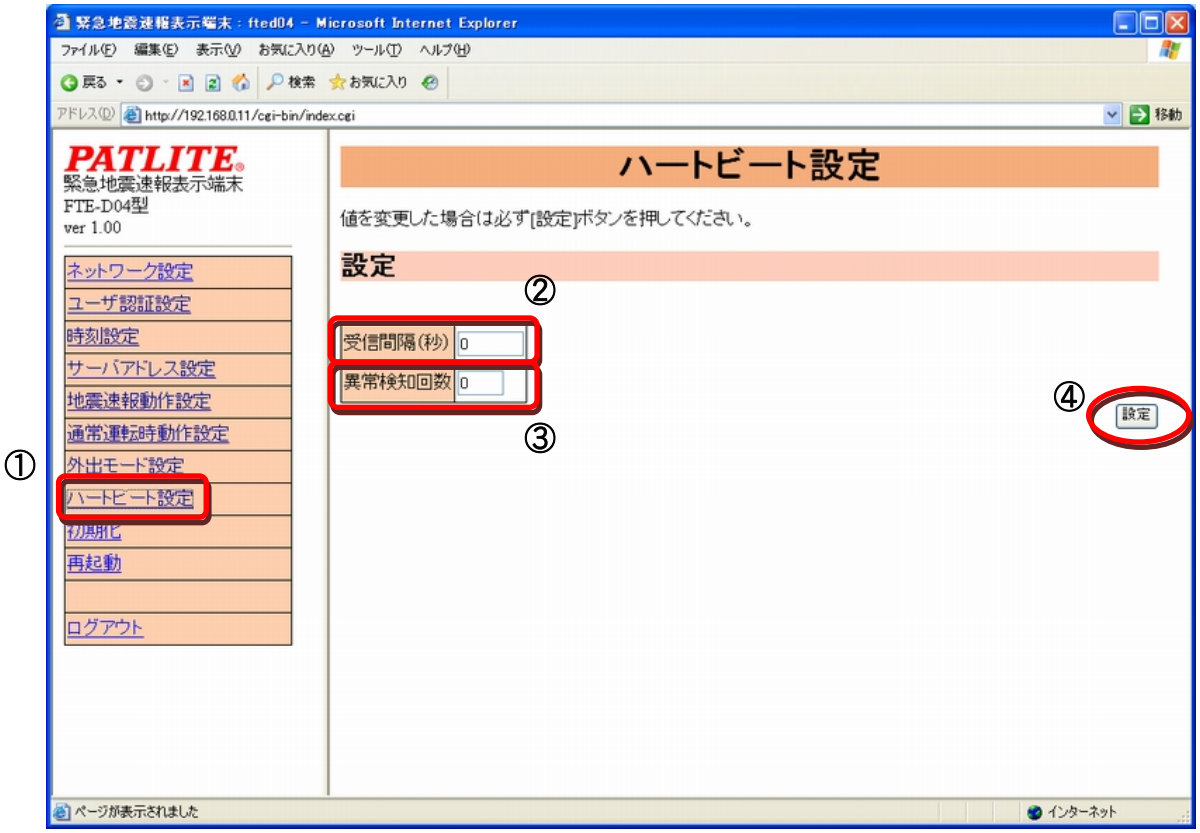
注意 外出モードに設定すると、定時報を受信しても動作しません。

6.3.9. ハートビート設定

ハートビートの受信間隔と異常検知回数を設定します。本機は設定した受信間隔の間にハートビートコマンドを受信しないと通信異常として検知します。異常検知回数で設定した回数連続して異常を検知すると画面に“通信異常”と表示します。

＊受信間隔を0秒または異常検知回数を0回に設定するとハートビート確認はおこなわれません。

① ハートビート設定を選択します。
② 受信間隔を秒で設定します。（入力可能値：0、5～9999）
③ 異常検知回数を設定します。（入力可能値：0～9）
④ 「設定」ボタンを押して入力した値を有効にします。



Point ハートビートとは？

ハートビートは正常に稼動していることを知らせるために送る信号（データ）です。
一定時間ごとに通信することで、正常に稼動しているとこと知らせます。

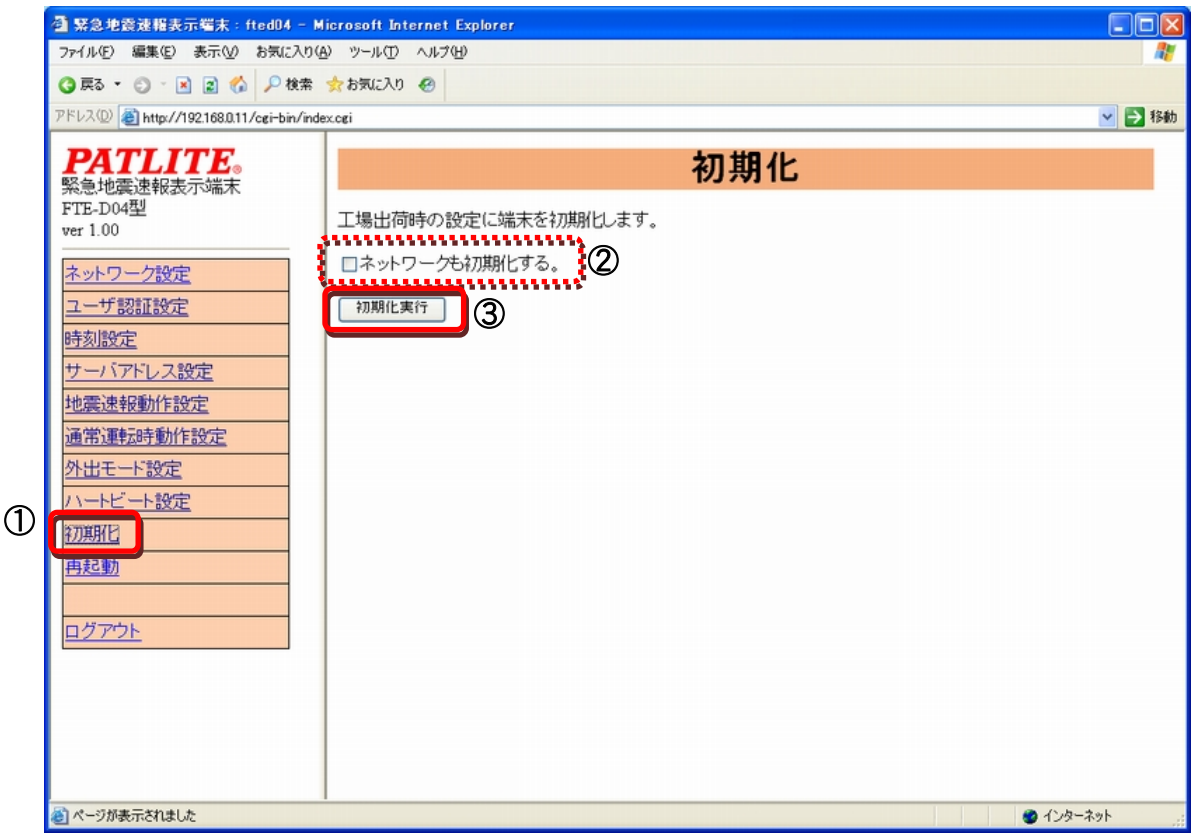
6.3.10. 初期化

工場出荷時の設定に本機を初期化します。

これまでに受信した全てのデータ（地震履歴・ｅ情報・緊急情報）は消去され、設定した項目はすべて初期化されます。

“ネットワークも初期化する”にチェックを入れるとネットワークの設定も初期化されます。設定していた項目を残しておきたい場合は、設定項目チェックシート（☞ 86,87ページ）に記録し、再度項目を設定してください。

① 初期化を選択します。
② ネットワークの設定も初期化するときはチェックを入れます。
③ 「初期化実行」ボタンを押します。



ネットワーク設定の初期値

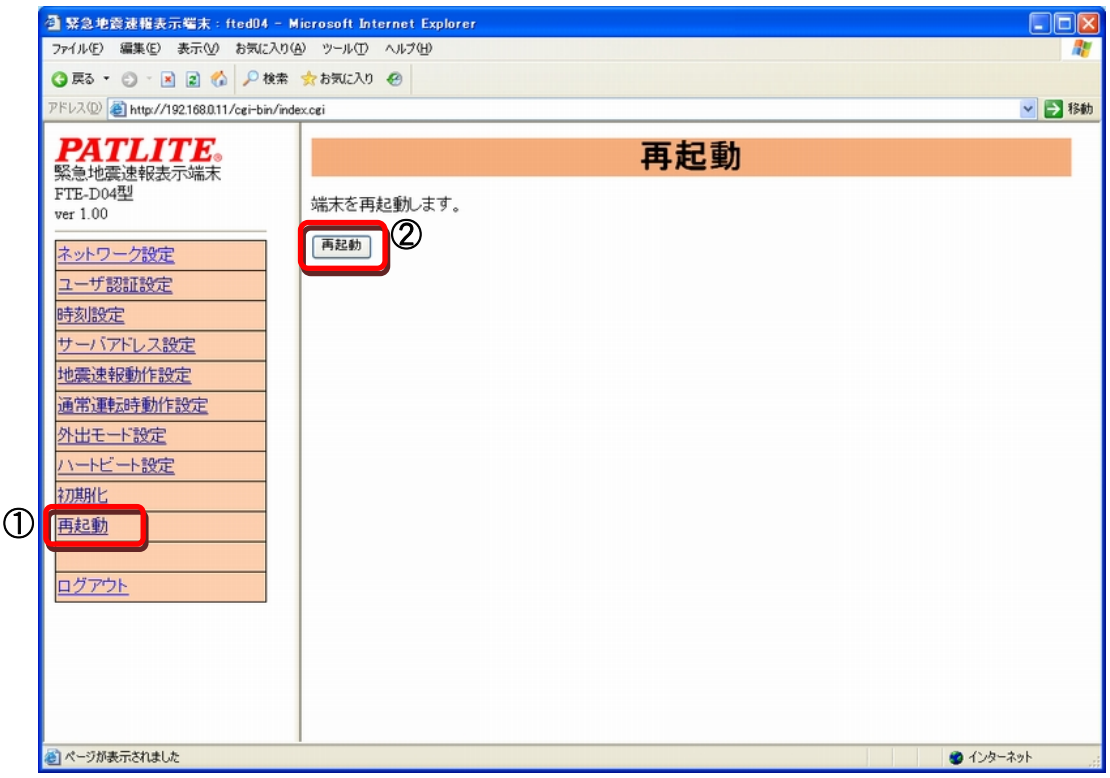
項目	初期値
設置場所	空欄
ホスト名	fted04
IPアドレス	192.168.0.11
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	空欄
DNSサーバ（主）	空欄
DNSサーバ（代替）	空欄
ドメイン名	空欄

6.3.11. 再起動

本機をWeb管理ツールから再起動することができます。
1分ほどで再起動が完了します。

> **注意**　これまでに受信したｅ情報・緊急情報のデータは消去されますので、ご注意ください。

① 再起動を選択します
② 「再起動」ボタンを押します。



6.3.12. ログアウト

設定が終わったらログアウトします。

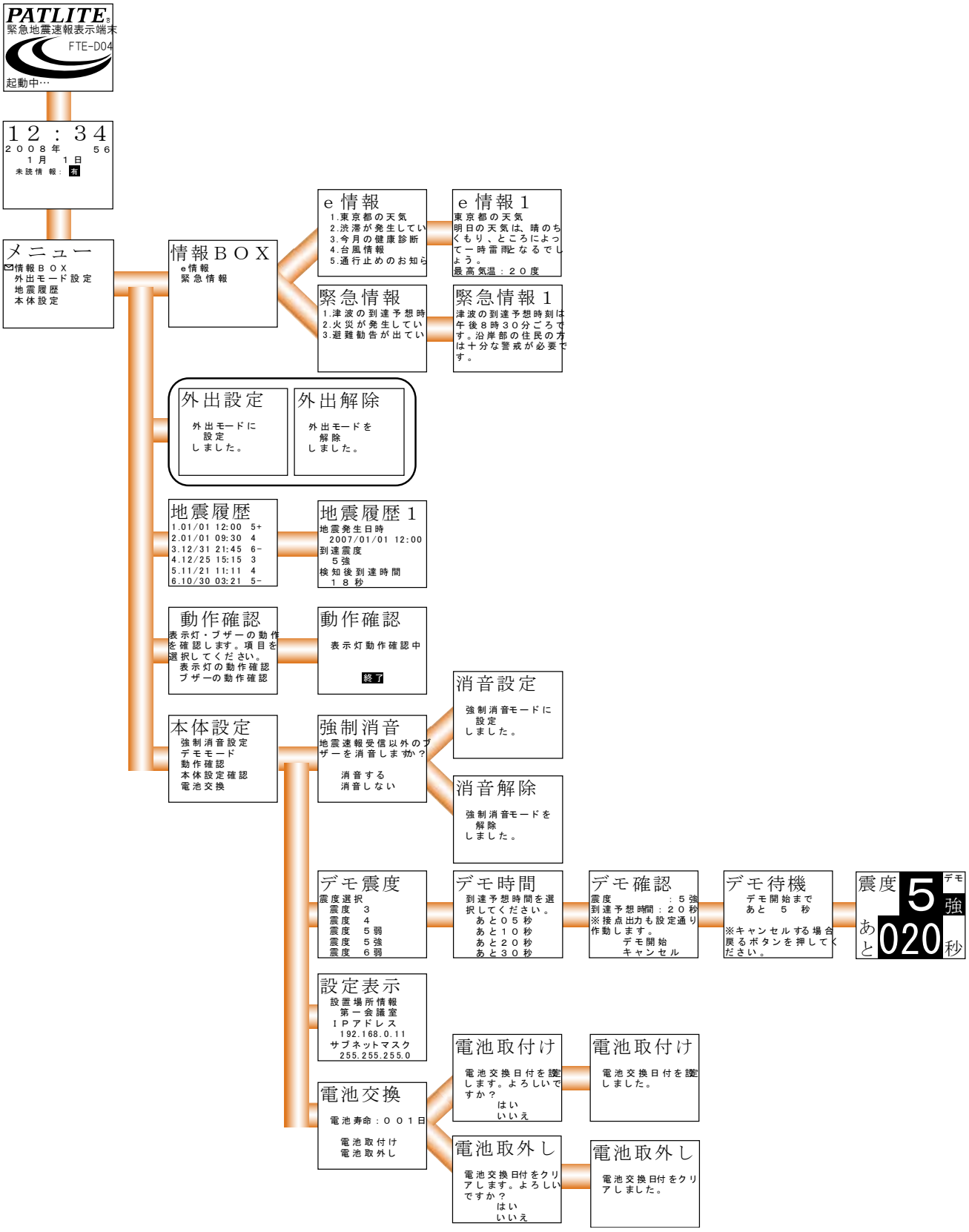
ログアウトするにはログアウトクリックします。

ここをクリック

> **注意**　ログアウトせずにブラウザを終了させると、10分間ログインできません。必ずログアウトするようにしてください。

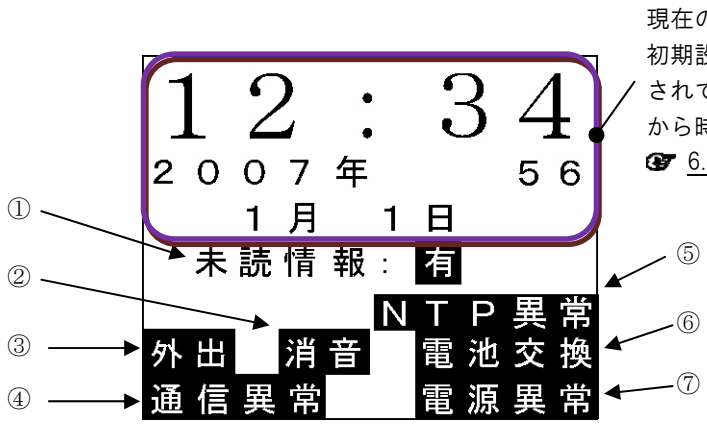
6.4. 本体表示画面の見方

6.4.1. 画面構成一覧



6.4.2. 日時表示画面の見方

本機は通常時、「日時表示画面」を表示します。日時表示画面では、現在の日時と各機能の状態を表示します。



現在の日時を表示します。
初期設定では、時計が正しく設定されておりせんので、web管理ツールから時刻を訂正してください。
☞ 6.3.4時刻設定(22ページ)

① 「未読情報」は、ｅ情報および緊急情報に未読情報が無ければ“無”を、未読情報が有れば“有”を表示します。
☞ 6.4.8 緊急情報を受信したとき(45ページ) ☞ 6.4.5 ｅ情報を受信したとき(42ﾍﾟｰｼﾞ)

② 「消音」は、強制消音に設定されているときに表示されます。設定されていない時は表示されません。
☞ 6.4.14 強制消音に設定する/強制消音を解除する(45ﾍﾟｰｼﾞ)

③ 「外出」は、外出モードに設定されているときに表示されます。設定されていない時は表示されません。
☞ 6.4.13 外出モードに設定する/外出モードを解除する(44ページ)

④ 「通信異常」は、地震速報サーバから送信されるハートビートコマンドを、一定期間端末が受けなかったときに、通信に問題があると判断し、通信異常と表示します。
☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(66ページ)

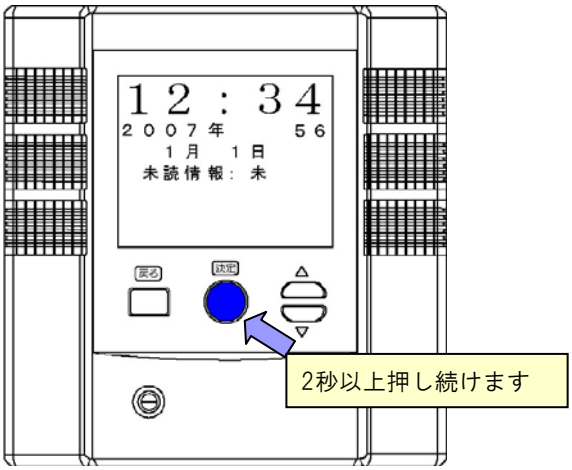
⑤ 「NTP異常」は、Web管理ツールで設定したNTPサーバとの通信ができなかったときに表示されます。
☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(52ページ)

⑥ 「電池交換」は、オプション設定の電池を使い始めてから2年になると表示されます。
☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(52ページ)

⑦ 「電源異常」は、オプションの電池を接続時に電源が正しく接続されていない場合に表示されます。
☞ 8.2 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき(52ページ)

6.4.3. メニュー画面を表示する

日時表示画面で「決定ボタン」を2秒以上長押しすると、メニュー画面を表示することができます。



<table>
<tr>
<td>
メニュー
✉情報ＢＯＸ
外出設定
地震履歴
本体設定
</td>
<td>「情報BOX」を選択して決定ボタンを押すと、情報BOX画面に切り替わります。e情報・緊急情報に未読のものがある場合、先頭にメールマークが表示されます。
☞ 6.4.6ｅ情報を確認する(43ページ)
☞ 6.4.8 緊急情報を確認する(45ページ)</td>
</tr>
<tr>
<td rowspan="2">
メニュー
情報ＢＯＸ
外出解除
地震履歴
本体設定
</td>
<td>「外出設定」を選択して決定ボタンを押すと、外出モードに設定することができます。すでに外出モードに設定されている場合、選択項目に「外出解除」と表示され、項目が選択されているときに決定ボタンを押すと外出モードが解除できます。
☞6.4.13 外出モードに設定する/外出モードを解除する(49ページ)</td>
</tr>
<tr>
<td>「地震履歴」を選択して決定ボタンを押すと、今までに受信した地震速報・キャンセル報・定時報・クリアコマンドの履歴が表示されます。
☞6.4.12 履歴を確認する(48ページ)</td>
</tr>
<tr>
<td>「本体設定」を選択して決定ボタンを押すと、本体の各種設定・確認ができる本体設定画面に切り替わります。
☞ 6.4.14 強制消音に設定する/強制消音を解除する(50ページ)
☞ 6.4.15 デモモードで動作させる(51ページ)
☞ 6.4.16 動作確認する(52ページ)
☞ 6.4.17 本機の設定を確認する(53ページ)
☞ 6.4.18 電池取付け設定をする(54ページ)
☞ 6.4.19 電池取外し設定をする(55ページ)</td>
</tr>
</table>

6.4.4. 緊急地震速報を受信したとき

本機が緊急地震速報を受信すると、表示画面に予想震度と揺れるまでの予想到達時間を表示します。
同時に、Web管理ツールの地震速報動作設定で設定した動作をおこないます。
☞ 6.3.6 地震速報動作設定(25ページ)

> Point　強制消音モードに設定されていても、緊急地震速報受信時の設定でブザーを動作させるにしておくとブザーが音量：大で動作します。

例）　予想震度：5強　地震が到達するまで：あと20秒

1

予想震度と揺れるまでの予想秒数を表示します。

2

・
・
・

0秒になるまでカウントダウンします。

> Point
> カウントダウン中に「決定ボタン」と「戻るボタン」を同時に押すと、カウントダウンと報知を止めることができます。画面は日時表示画面に戻ります。

0秒になった後、報知を止めたい、または画面を日時表示画面に戻したいときは、戻るボタンを押してください。

> Point　過去に受信した地震速報の情報は、「地震履歴」から確認することができます。
> ☞ 6.4.12 履歴を確認する(48ページ)

各状態における緊急地震速報受信時の報知動作

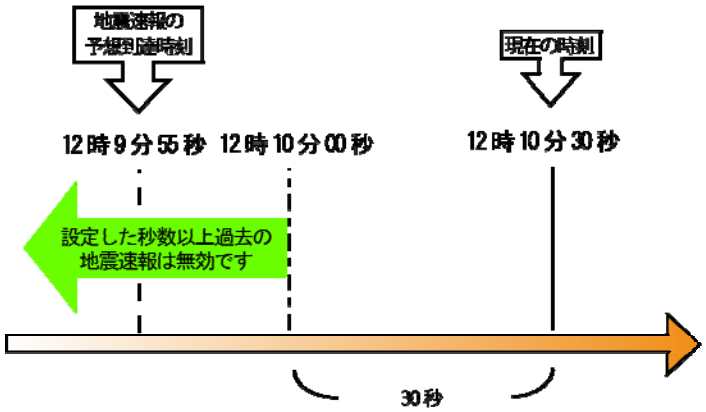
本機の状態＼報知動作	LED 表示灯	ブザー	リレー接点	表示画面
日時表示	○	○	○	○
メニュー/ｅ情報 表示中	○	○	○	○
緊急情報表示中	○	○	○	○
キャンセル画面/デモ /動作確認 実行中	○	○	○	○
地震カウントダウン中	○	○	○	○
地震カウントダウン後 （0 秒表示時）	○	○	△	○

○…Web管理ツールで設定した動作をおこないます。表示画面は震度と揺れまでの秒数を表示します。
△…リレー接点が動作している状態なら、その状態を維持します。

地震速報受信制限機能

地震速報カウントダウン終了後の動作で「日時表示画面に戻る」を選択した場合、地震速報の受信制限機能が有効になります。受信した地震速報の予想到達時刻が、現在の時刻と比べて日時表示画面に戻るまでの時間で設定した秒数以上過去のものであったとき、本機は動作しません。また、地震履歴にも残りません。

例）日時表示画面に戻るまでの時間を30秒に設定。現在の時刻が12時10分30秒のときに、予想到達時刻が12時9分55秒の地震情報を受信したとき。



6.4.5. ｅ情報を受信したとき

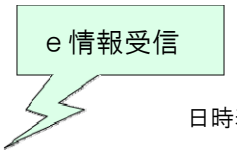
日時表示画面を表示中にｅ情報を受信すると、ｅ情報の詳細画面を画面に表示します。Web管理ツールで設定したｅ情報受信時の動作をおこないます。メニュー画面を表示中にｅ情報を受信すると、画面は変わらずにWeb管理ツールで設定した動作のみおこないます。

☞ 6.3.7 通常運転時動作設定(30ページ)

> 注意　ｅ情報の受信データは電源のON/OFFもしくは、再起動操作で消去されます。

---

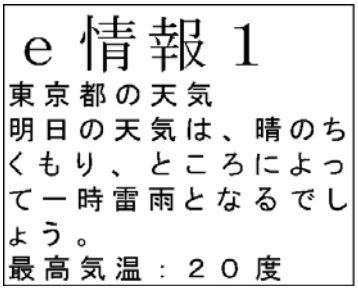
❶



日時表示画面でｅ情報を受信すると

---

❷



Web管理ツールで設定したｅ情報受信時の動作をおこないます
- LED表示灯点灯/点滅
- ブザー
- リレー出力

表示画面にｅ情報を表示します。

各画面でのｅ情報受信時の報知動作

地震発生画面表示中（カウントダウン中、カウントダウン後、デモ中）と動作確認中・緊急情報受信時にｅ情報を受信しても動作しません。その場合、情報BOXからｅ情報を表示してください。

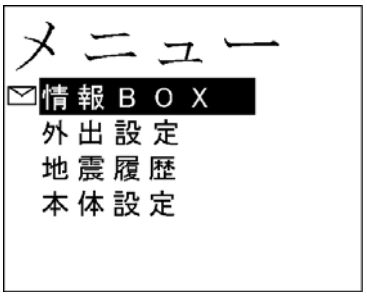
本機の状態＼報知動作	LED 表示灯	ブザー	リレー接点	表示画面
日時表示	○	○	○	○
メニュー/ｅ情報 表示中	○	○	○	×
緊急情報表示中	×	×	×	×
キャンセル画面/デモ/動作確認 実行中	×	×	×	×
地震カウントダウン中	×	×	×	×
地震カウントダウン後（0 秒表示時）	×	×	×	×

○･･･Web管理ツールで設定した、ｅ情報受信時の動作をおこないます。表示画面は受信したｅ情報を表示します。
×･･･ｅ情報受信時の動作はおこないません。表示画面にもｅ情報の表示はおこないません。

6.4.6. ｅ情報を確認する

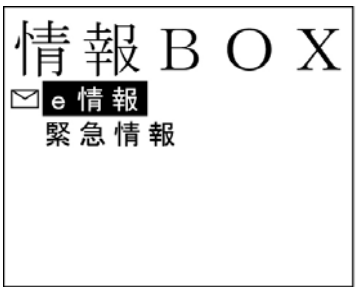
本機が過去に受信したｅ情報を確認することができます。本機に保存される件数は最大 20 件までです。
20 件を超えると、古いものから順に消去されます。

1



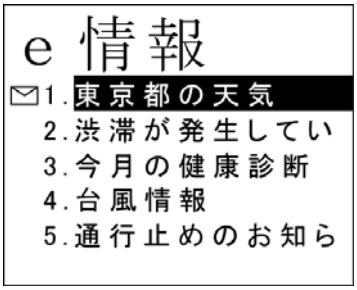
メニュー画面の「情報ＢＯＸ」を選択し、決定ボタンを押します。
未読情報があれば先頭に「✉」（メールマーク）が表示されます。

2



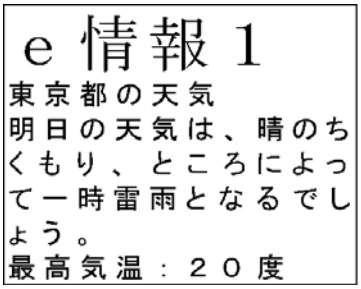
情報ＢＯＸが表示されます。「ｅ情報」を選択し、決定ボタンを押します。未読情報があれば先頭に「✉」が表示されます。

3

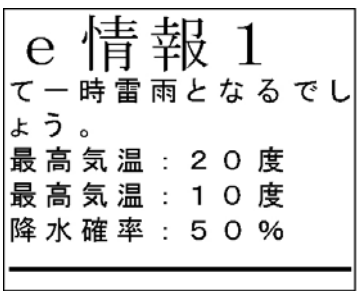


ｅ情報一覧画面が表示されます。見たい情報を上下ボタンで選択し、決定ボタンを押します。未読情報があれば先頭に「✉」が表示されます。

4



選択したｅ情報の内容が表示されます。
上下ボタンで画面がスクロールします。



最終行には一重の線が表示されます。

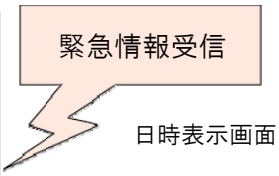
6.4.7. 緊急情報を受信したとき

日時表示画面/メニュー画面表示中など、地震のカウントダウン中以外の時に緊急情報を受信すると、緊急情報の詳細画面を画面に表示します。Web管理ツールで設定した緊急情報受信時の動作をおこないます。

☞ 6.3.7 通常運転時動作設定をする(30ページ)

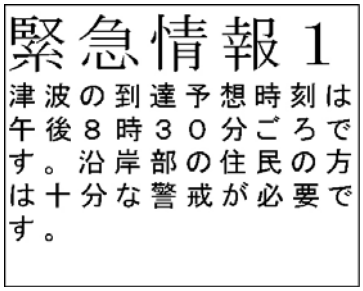
> 注意　緊急情報の受信データは電源のON/OFFもしくは、再起動操作で消去されます。

1



日時表示画面で緊急情報を受信すると

2



Web管理ツールで設定した緊急情報受信時の動作をおこないます
- LED表示灯点灯/点滅
- ブザー
- リレー出力

表示画面に緊急情報を表示します。

各画面での緊急情報受信時の報知動作

地震のカウントダウン中に緊急情報を受信すると、カウントダウン終了後に詳細画面を自動的に表示し、Web管理ツールで設定した緊急情報受信時の動作をおこないます。

報知動作 / 本機の状態	LED 表示灯	ブザー	リレー接点	表示画面
日時表示	○	○	○	○
メニュー/ｅ情報 表示中	○	○	○	○
緊急情報表示中	○	○	○	○
キャンセル画面/デモ/動作確認 実行中	○	○	○	○
地震カウントダウン中	△1	△1	△2	△1
地震カウントダウン後（0 秒表示時）	○	○	△2	○

○…Web管理ツールで設定した、緊急情報受信時の動作をおこないます。表示画面は受信した緊急情報を表示します。
△1…カウントダウン終了後にWeb管理ツールで設定した、緊急情報受信時の動作をおこない、
　　表示画面に緊急情報を表示します。
△2…リレー接点が動作している状態なら、その状態を維持します。

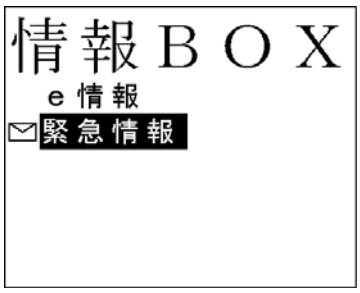
6.4.8. 緊急情報を確認する

本機が過去に受信した緊急情報を確認することができます。本機に保存される件数は最大 20 件までです。
20 件を超えると、古いものから順に消去されます。

1

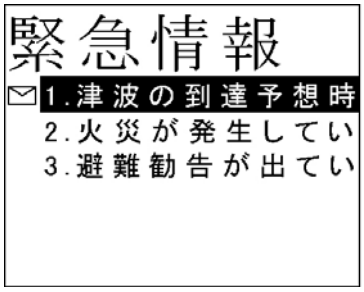
メニュー画面の「情報ＢＯＸ」を選択し、決定ボタンを押します。
未読情報があれば先頭に「✉」（メールマーク）が表示されます。

2



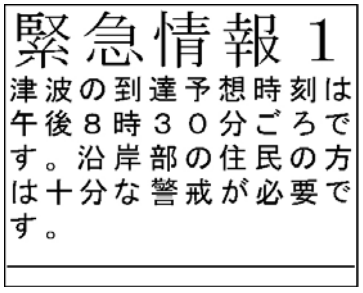
情報ＢＯＸが表示されます。「緊急情報」を選択し、決定ボタンを押します。未読情報があれば先頭に「✉」が表示されます。

3



緊急情報一覧画面が表示されます。見たい情報を上下ボタンで選択し、決定ボタンを押します。未読情報があれば先頭に「✉」が表示されます。

4



選択した緊急情報の内容が表示されます。
上下ボタンで画面がスクロールします。

最終行には一重線が表示されます。

ｅ情報・緊急情報で不正なデータを受信したとき

ｅ情報・緊急情報でデータが壊れている等で、不正なデータを受信したときは正しく表示されません。
データの先頭から正常なデータのところまでを表示します。
不正なデータを受信したときは「 」（壊れたメールマーク）を表示します。

6.4.9. キャンセル報を受信したとき

本機がキャンセル報を受信したとき、Web管理ツールで設定したキャンセル報受信時の動作を行います。日時表示画面に戻るに設定していた場合は、キャンセル報を受信すると日時表示画面を表示し、通常運転状態になります。キャンセル報を表示するに設定していた場合は、キャンセル画面を設定した秒数表示し、キャンセル報受信時の動作をおこないます。

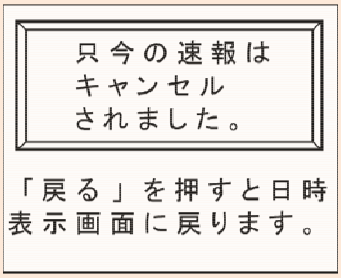
☞ 6.3.7 通常運転時動作設定をする(30ページ)

1

キャンセル報受信

カウントダウン中にキャンセル報を受信すると

2



キャンセル報を表示する　設定時

キャンセル画面を表示し、Web管理ツールで設定した
キャンセル報受信時の動作をおこないます

- LED表示灯点灯/点滅
- ブザー
- リレー出力

日時表示画面に戻る　設定時

日時表示画面を表示し、LED表示灯は通常動作時で設定した動作を行い、ブザー・リレー出力は停止します。

各画面でのキャンセル報受信時の報知動作

報知動作 / 本機の状態	LED 表示灯	ブザー	リレー接点	表示画面
すべての状態	○	○	○	○

○…すべての状態において、キャンセル報を受信すると、キャンセル報の動作を優先しておこないます。

Point

過去に受信したキャンセル報の情報は、「地震履歴」から確認することができます。

☞ 6.4.12 履歴を確認する(48ページ)

6.4.10. 定時報を受信したとき

本機が定時報を受信したとき、Web管理ツールで設定した定時報受信時の動作を行います。定時報を受信したときの状態が、日時表示画面、メニュー画面、e情報表示画面のときのみ動作をおこないます。
LED表示灯・ブザー・表示画面は変化しません。

6.3.7 通常運転時動作設定をする（30ページ）

Point　本機が定時報を受信したとき、定時報受信時に動作させるリレーが1つでも既に動作していた場合、受信した定時報は無効になります。
　ただし、定時報受信時の動作を「状態維持」を選択していた場合は、定時報の動作設定が有効になります。

各画面での定時報受信時の報知動作

報知動作 / 本機の状態	LED 表示灯	ブザー	リレー接点	表示画面
日時表示			○	
メニュー/ｅ情報 表示中			○	
緊急情報表示中			×	
キャンセル画面/デモ/動作確認 実行中			×	
地震カウントダウン中			×	
地震カウントダウン後（0 秒表示時）			×	

○…Web管理ツールで設定した、定時報受信時の動作をおこないます。定時報受信時に動作させるリレー接点がすでに動作していた場合は、動作しません。

6.4.11. クリアコマンドを受信したとき

本機がクリアコマンドを受信すると、日時表示画面を表示し通常運転状態になります。
過去に受信したキャンセル報の情報は、「地震履歴」から確認することができます。

☞ 6.4.12 履歴を確認する(48ページ)

各画面でのクリアコマンド受信時の動作状態

報知動作 / 本機の状態	LED 表示灯	ブザー	リレー接点	表示画面
すべての状態	**通常動作**	**停止**	**OFF**	**日時表示画面**

6.4.12. 履歴を確認する

本機が過去に受信した、緊急地震速報・キャンセル報・定時報・クリアコマンドの履歴を確認することができます。履歴は最大 20 件まで保存できます。20 件を超えると古いものから消去されます。

1

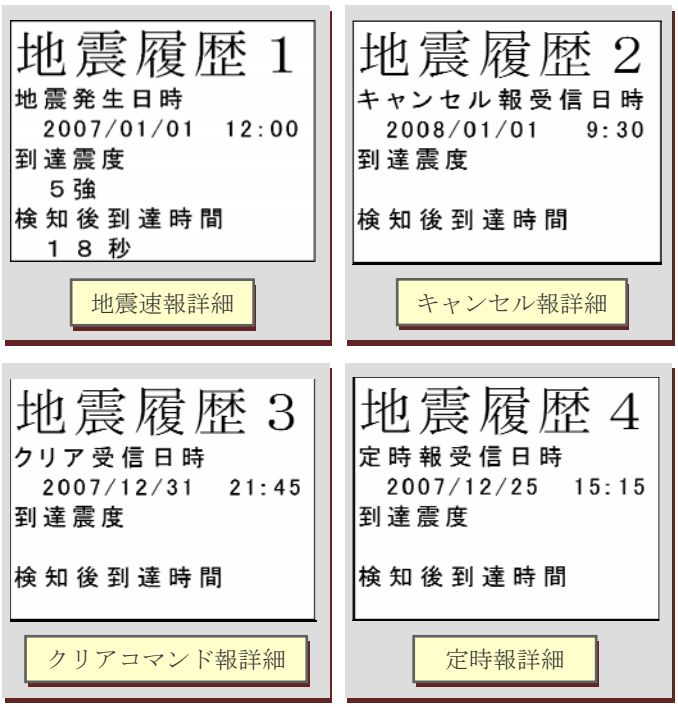
メニュー画面の「地震履歴」を選択し、決定ボタンを押します。

2

地震履歴一覧画面が表示され、新しいものから順に表示されます。
一画面に表示しきれないときは、上下ボタンを押してスクロールさせてください。
日付、時刻、地震速報の場合は震度、地震速報以外の場合は種類が表示されます。
CA:キャンセル報(CAncel) CL:クリアコマンド(CLear)
RG:定時報(ReGular)

決定ボタンを押すと選択されている履歴の詳細情報が表示されます。

3



地震速報の場合は、地震の発生日時・到達震度・検知後到達時間も表示されます。
キャンセル報・クリアコマンド・定時報の場合は、受信した日時のみ表示されます。

6.4.13. 外出モードに設定する/外出モードを解除する

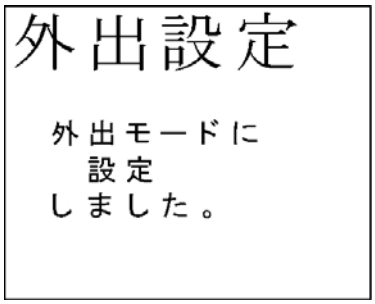
外出時等、本機の設置場所付近に人がいない状況で、報知動作を制限したいときに設定します。
Web 管理ツールの外出モード設定で、設定した動作を有効にするか無効にするか選択します。
☞ 6.3.8 外出モード設定(33 ページ)

外出モードに設定するとき

1

外出モードに設定したいときは、メニュー画面の「外出設定」を選択し、決定ボタンを押します。

2



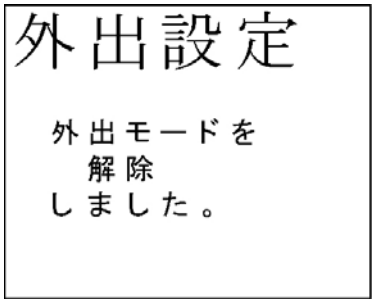
外出モードに設定されます。
10秒後に自動的に日時表示画面に戻ります。「決定」もしくは「戻る」ボタンを押しても日時表示画面にもどります。
日時表示画面に外出と表示されます

外出モードを解除するとき

1

外出モードを解除したいときは、メニュー画面の「外出解除」を選択し、決定ボタンを押します。

2



外出モードが解除されます。
10秒後に自動的に日時表示画面に戻ります。「決定」もしくは「戻る」ボタンを押しても日時表示画面にもどります。
日時表示画面の外出表示が消えます。

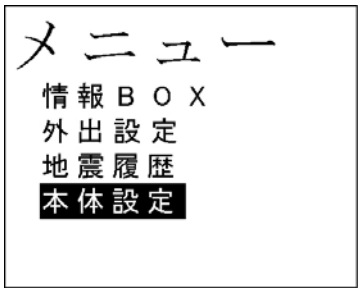
6.4.14. 強制消音に設定する/強制消音を解除する

強制消音に設定すると、ブザーを鳴動しないようにすることができます。

Point　緊急地震速報を受信したときは、強制消音に設定しておいても音量大でブザー鳴動をおこないます。

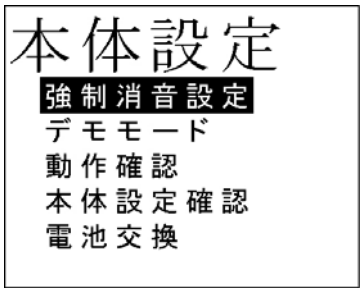
強制消音モードに設定するとき

1



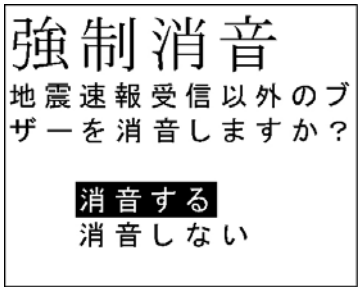
メニュー画面で「本体設定」を選択して
決定ボタンを押します。

2



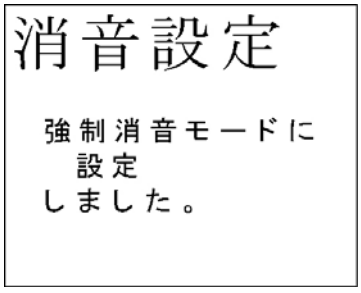
「強制消音設定」を選択し、「決定」ボタンを押します。

3



「消音する」を選択し、「決定」ボタンを押します。

4



強制消音モードに設定されます。

強制消音モードを解除するとき

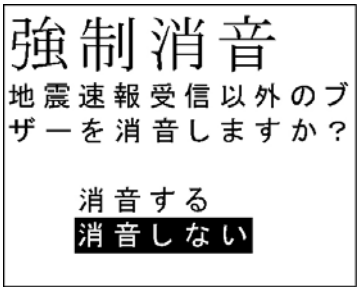
1

メニュー画面で「本体設定」を選択して
決定ボタンを押します。

2

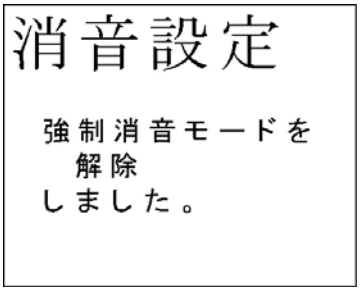
「強制消音設定」を選択し「決定」ボタンを押します。

3



「消音しない」を選択し、「決定」ボタンを押します。

4



強制消音モードが解除されます。

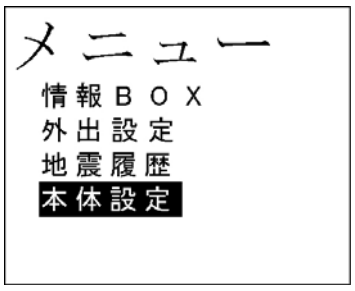
10 秒後に自動的に日時表示画面を表示します。「決定」もしくは「戻る」ボタンを押しても日時表示画面を表示します。

6.4.15.　デモモードで動作させる

実際に地震情報を受信したときと同じ動作をおこないます。地震情報を受信したときの動作確認や、避難訓練をおこなうときなどに活用できます。

注意　リレー出力も設定どおりに動作します。
リレー出力と接続している機器を動作させても安全か、十分確認してからおこなってください。

1

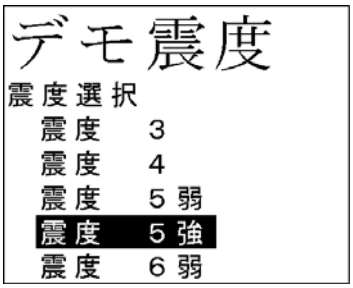


メニューの「本体設定」を選択し、決定ボタンを押します。

2

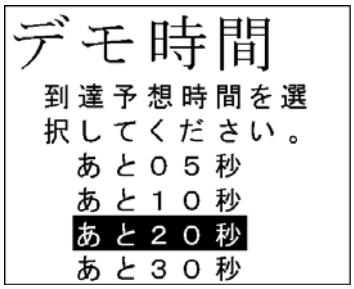
「デモモード」を選択し、決定ボタンを押します。

3



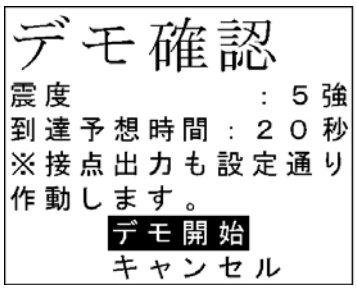
震度を上下ボタンで選択し、決定ボタンを押します。

4



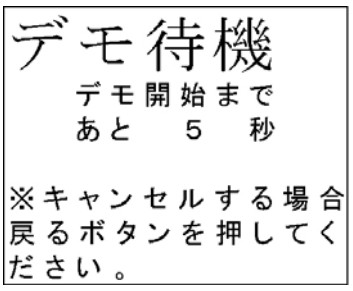
到達予想時間を上下ボタンで選択し、決定ボタンを押します。

5



「デモ開始」を選択し、決定ボタンを押します。
「キャンセル」を選択すると、②本体設定に戻ります。

6



キャンセルしたい時は、5秒以内に戻るボタンを押してください。決定ボタンを押すと、待ち時間なしに⑦に移ります。

7

選択した震度、秒数で「デモ」と表示してカウントダウンを開始します。カウントダウン中にキャンセルしたいときは決定ボタンと戻るボタンを同時に押してください。

8

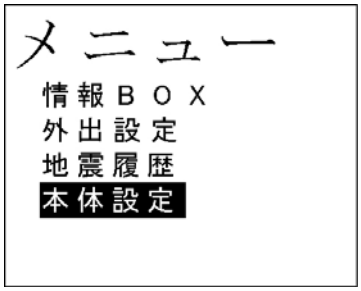
地震情報を受信したときと同じ動作をおこないます。
戻るボタンを押すと報知を止め日時表示画面を表示します。

6.4.16.　動作確認する

表示灯・ブザーの動作を確認することができます。
表示灯は 赤色→青色→黄色の順に点灯を繰り返します。ブザーは 音量大→音量小 の鳴動を繰り返します。

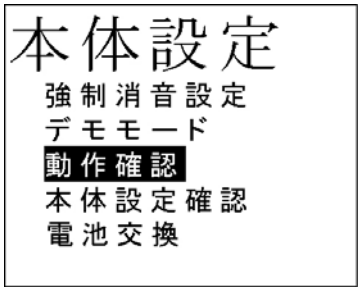
表示灯の動作を確認するとき

1



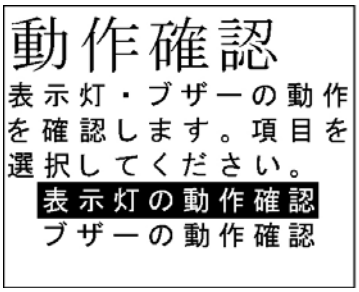
「本体設定」を選択し、決定ボタンを押します。

2



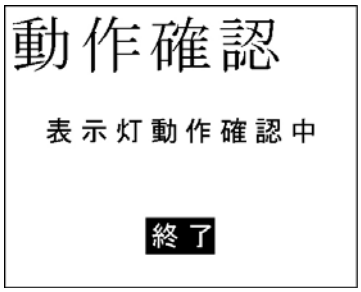
「動作確認」を選択し、決定ボタンを押します。

3



「表示灯の動作確認」を選択し、決定ボタンを押します。

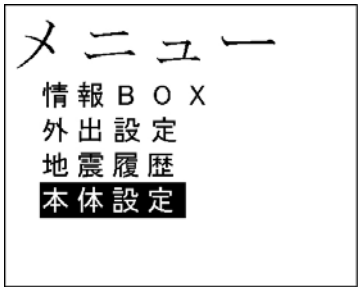
4



決定ボタンまたは戻るボタンが押されるまで、
表示灯の確認動作を続けます。
押されると、③動作確認に戻ります。

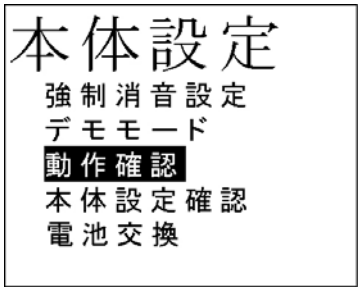
ブザーの動作を確認するとき

1



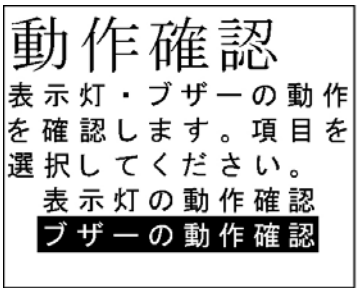
「本体設定」を選択し、決定ボタンを押します

2



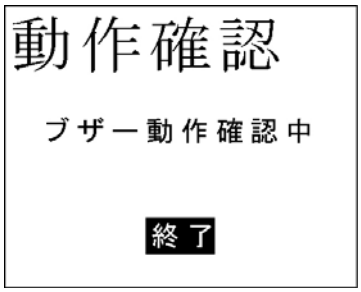
「動作確認」を選択し、決定ボタンを押します。

3



「ブザーの動作確認」を選択し、決定ボタンを押します。

4

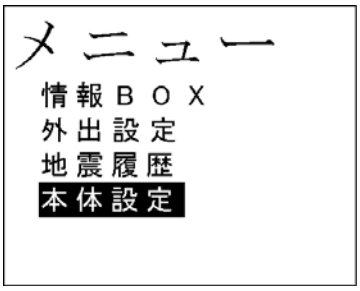


決定ボタンまたは戻るボタンが押されるまで、
ブザーの確認動作を続けます。
押されると、③動作確認に戻ります。

6.4.17.　本機の設定を確認する

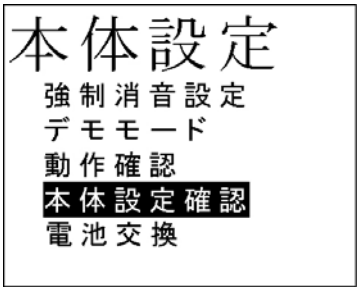
本機の設定状態を確認することができます。
設置場所情報・本機のIPアドレス・ネットマスク・デフォルトゲートウェイ・ホスト名・ドメイン名・
地震速報サーバIPアドレス・e情報/緊急情報サーバのIPアドレス（3件）・本機のポート番号
が表示されます。

1



「本体設定」を選択して決定ボタンを押します。

2

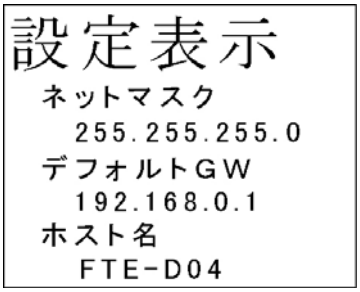


「本体設定確認」を選択して決定ボタンを押します。

3

表示端末の設定状態が表示されます。
戻るボタンで②に戻ります。

4



上下ボタンでスクロールさせて確認します。
戻るボタンで②に戻ります。

6.4.18. 電池取付け設定をする

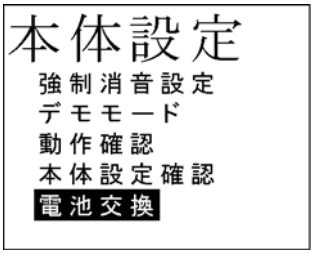
本機にオプション品の電池を取り付けるとき、または交換するときに設定します。
取付け設定を行った時から、電池寿命の2年をカウントします。 ☞ 5.2バッテリーを取付ける（13ページ）

> Point
> 電池を新たに取付けたときは、必ず電池取付け設定を行ってください。
> 電池取付け設定をおこなわないと電池異常のメッセージが表示されません。

1

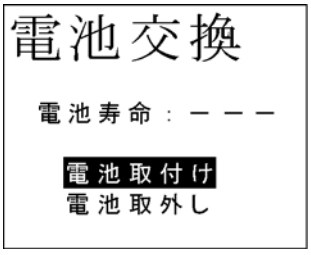
「本体設定」を選択し、決定ボタンを押します。

2



「電池交換」を選択し、決定ボタンを押します。

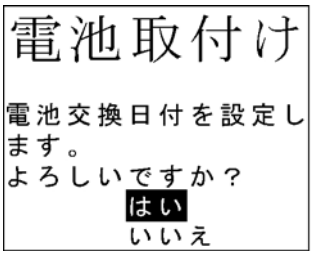
3



「電池取付け」を選択し、決定ボタンを押します。
「電池取外し」を選択し、決定ボタンを押すと
電池取外し設定に移ります。

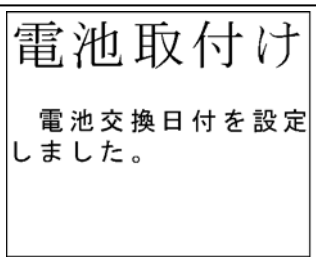
☞電池取外し設定をする(55ページ)

4



「はい」を選択し、決定ボタンを押します。
「いいえ」を選択して決定ボタンを押すか、戻る
ボタンを押すと③に戻ります。

5



電池交換日付が設定されます。
決定ボタン、もしくは戻るボタンを押すと日時表示画面
を表示します。
10秒間何も操作しなくても日時表示画面を表示します。

設定後は731日に設定され、カウントを始めます。

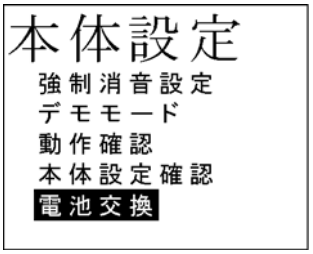
6.4.19. 電池取外し設定をする

本体から電池を取外すときに設定します。
電池取り外し設定をすると、電池寿命のカウントを中止します。

1

「本体設定」を選択し、決定ボタンを押します。

2



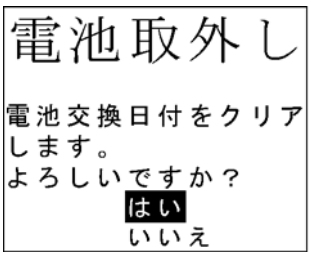
「電池交換」を選択し、決定ボタンを押します。

3

「電池取外し」を選択し、決定ボタンを押します。
「電池取付け」を選択し、決定ボタンを押すと
電池取付け設定に移ります。

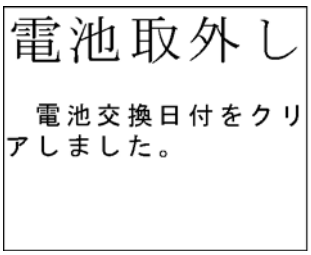
☞電池取付け設定をする(54ページ)

4

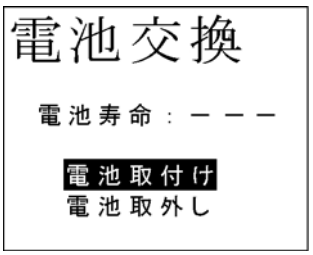


「はい」を選択し、決定ボタンを押します。
「いいえ」を選択して決定ボタンを押すか、戻る
ボタンを押すと③に戻ります。

5



電池交換日付がクリアされます。
決定ボタン、もしくは戻るボタンを押すと日時表示画面
を表示します。
10秒間何も操作しなくても日時表示画面を表示します。



設定後は電池交換日付がクリアされています。

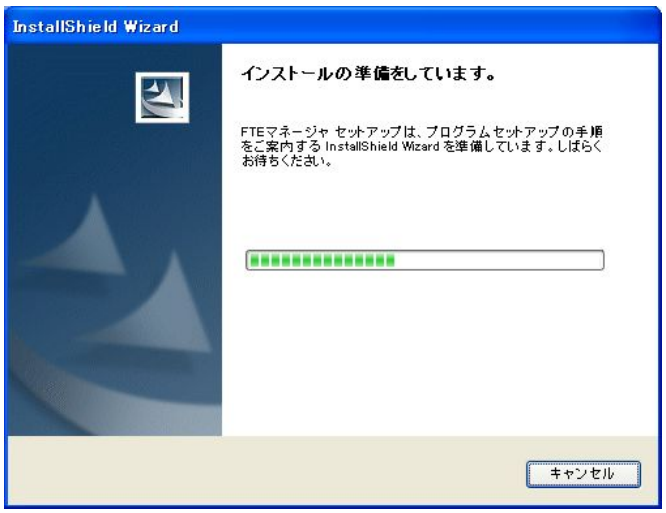
7. FTEマネージャ

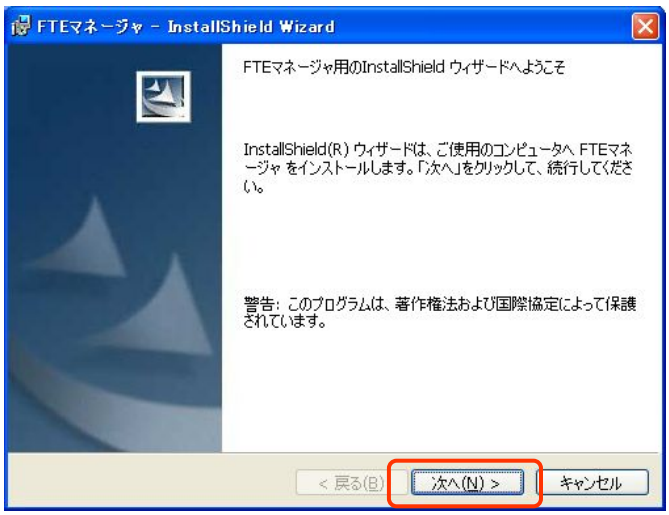
FTEマネージャでは、端末のネットワーク設定やファームウェアのアップデートをすることが出来ます。

7.1. FTEマネージャをインストールする

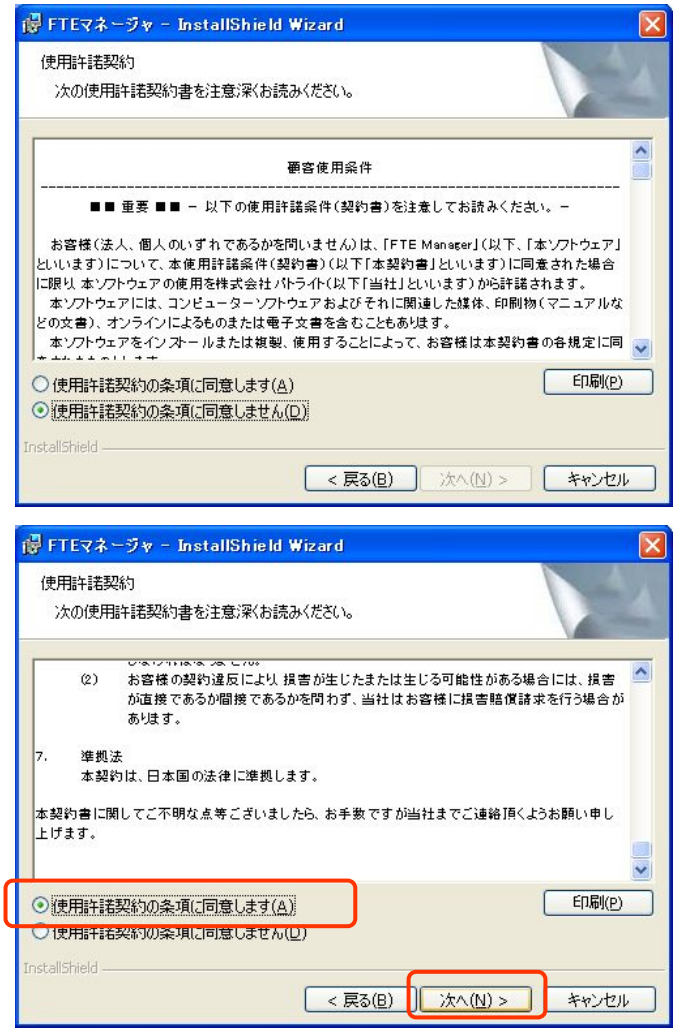
1．ダウンロードしたFTEマネージャのインストールファイル（Setup.exe）をダブルクリックして起動させます。

2．インストール準備画面のあと、FTEマネージャインストール開始画面が表示されます。
「次へ(N)」ボタンをクリックしてください

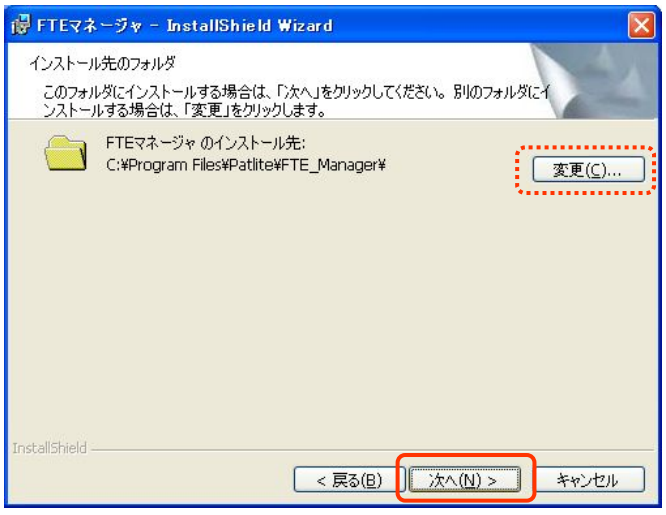




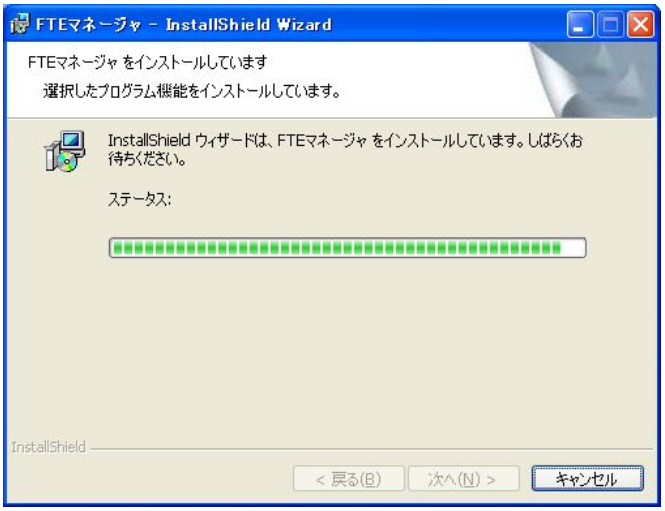
3．仕様許諾契約書が表示されます。内容を良くお読みの上、「仕様許諾契約の条項に同意します」に
チェックをいれ、「次へ」ボタンをクリックします。



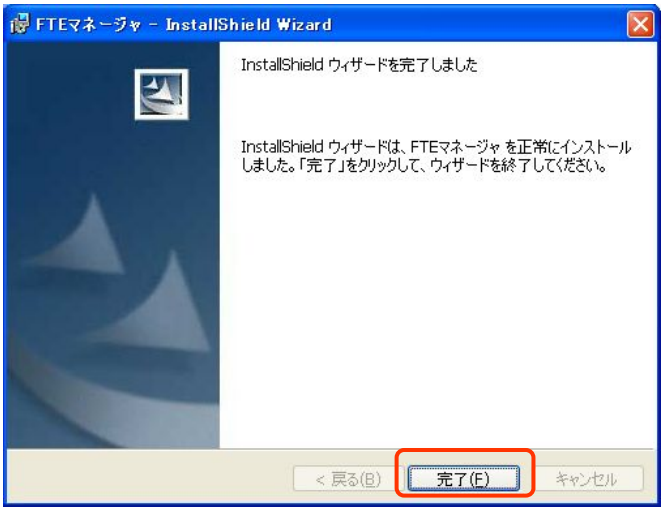
4．インストール先のフォルダを選択します。デフォルト（C:¥Program Files¥Patlite¥FTE_Manager）の
ままでよろしければ、「次へ」ボタンをクリックしてください。インストール先のフォルダを変更したい
場合は、「変更」ボタンをクリックし、インストール先を指定してから「次へ」ボタンをクリックしてください。



5．インストール開始画面が表示されます。「インストール」ボタンをクリックします。
クリックするとインストールを開始します。



6．インストールが完了すると、インストール完了画面が表示されます。
「完了」ボタンをクリックして画面を閉じます。



7.2. FTEマネージャをアンインストールする

1．「スタート」ー「設定」ー「コントロールパネル」を選択し、クリックします。

2．コントロールパネルが表示されますので、「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。

3．インストールされているプログラム一覧の中から、「FTEマネージャ」を選択し、「削除」ボタンを
クリックします。「削除」ボタンをクリックするとアンインストールされます。

7.3. FTEマネージャの操作方法

7.3.1. FTEマネージャを起動する

「スタート」ー「プログラム」ー「パトライト」ー「FTEマネージャ」ー「FTEManager.exe」を選択します。
FTEマネージャが起動します。

注意

FTEマネージャは同じＰＣで同時に2つ以上起動することはできません。
2つ以上起動しようとするとエラーメッセージを表示します。

注意

同一ネットワーク内で、すでにFTEマネージャを起動しているＰＣがあるとき、
同時起動の警告メッセージを表示します。終了する場合は「はい」を、そのまま
起動する場合は「いいえ」をクリックしてください。

複数のＰＣで同時に使用すると、ご操作の原因となります。複数のＰＣで同時にFTEマネージャを
使用する時は、十分にご注意ください。

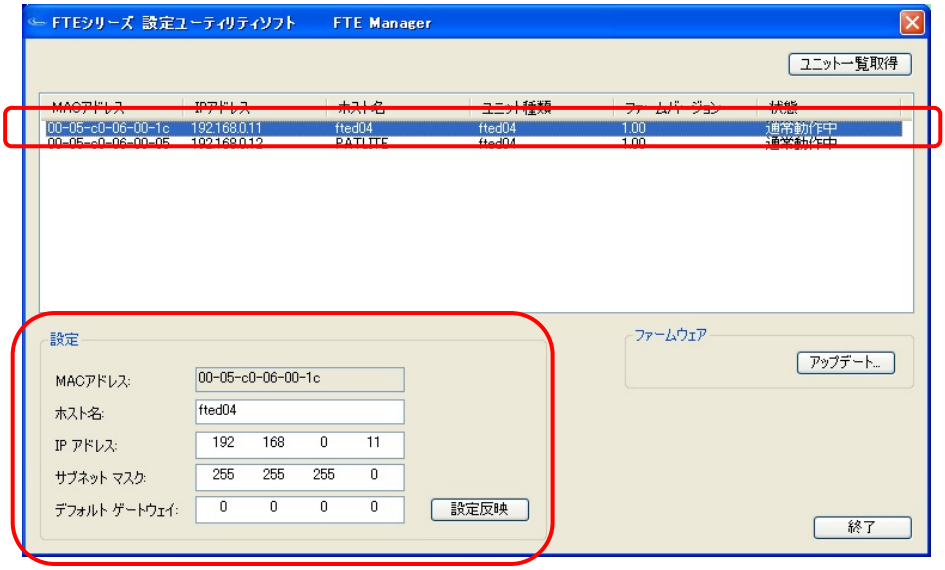
7.3.2. ユニット一覧を表示する

ユニット一覧ボタンをクリックすると、同一ネットワーク内にある設定可能な端末一覧を表示します。

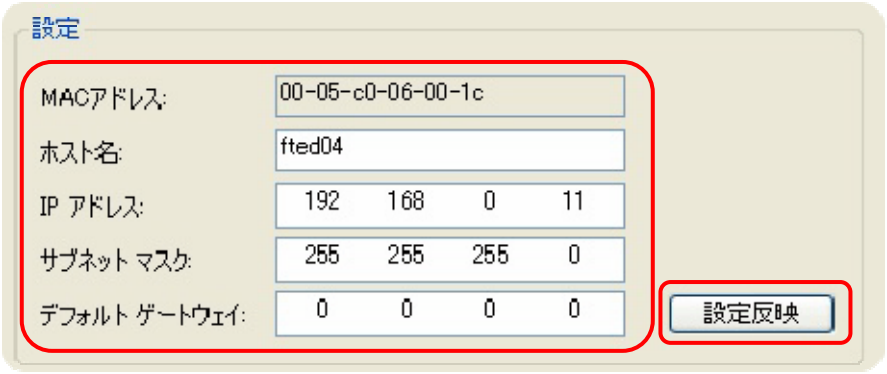
項目名	内容
MACアドレス	MACアドレスを表示します
IPアドレス	IPアドレスを表示します
ホスト名	ホスト名を表示します
ユニット種類	型名を表示します
ファームバージョン	ファームウェアのバージョンを表示します
状態	「通常動作中」、「ファームウェア更新中」、「ファームウェア更新失敗！」のいずれかを表示します

7.3.3. ネットワーク設定

FTEマネージャからネットワークの設定を変更することができます。
ユニット一覧表示から設定を変更したい端末を選択すると、設定表示欄に選択した端末の
ネットワーク設定が表示されます。



ネットワーク設定表示欄の各項目に変更したい値を設定して、設定反映ボタンをクリックします。



> **注意** MACアドレスは変更できません。

ネットワーク設定を行うと対象のユニットは自動で再起動します。確認ダイアログが表示されますので、再起動しても問題ない場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

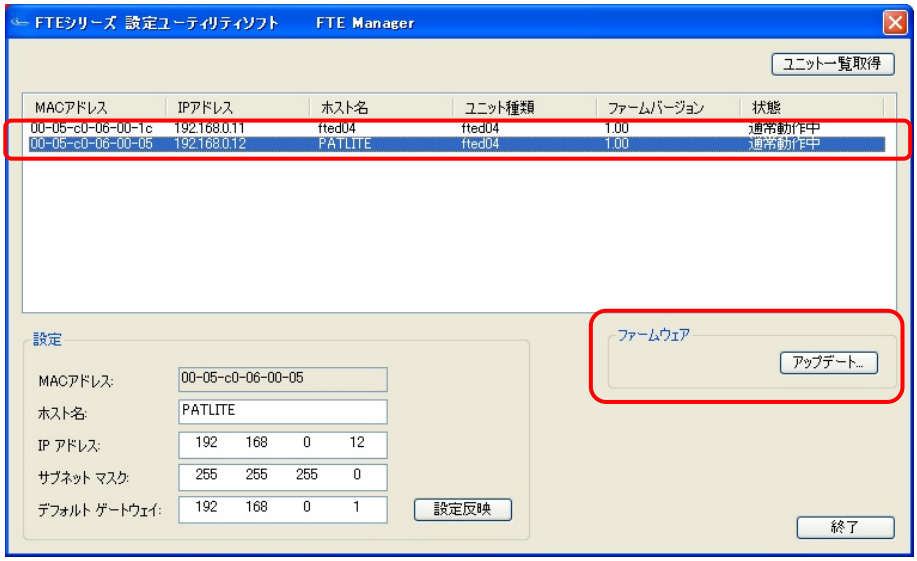
> **注意** 再起動するとこれまでに受信したｅ情報・緊急情報のデータは消去されます。

パスワードを入力するダイアログが表示されますので、パスワードを入力して「OK」をクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、設定を更新し、再起動します。
パスワードはWeb管理ツールへログインするときに使用するパスワードと同じになります。
パスワードはWeb管理ツールのユーザ認証設定で変更できます。 ☞ 6.3.3ユーザ認証設定（21ページ）

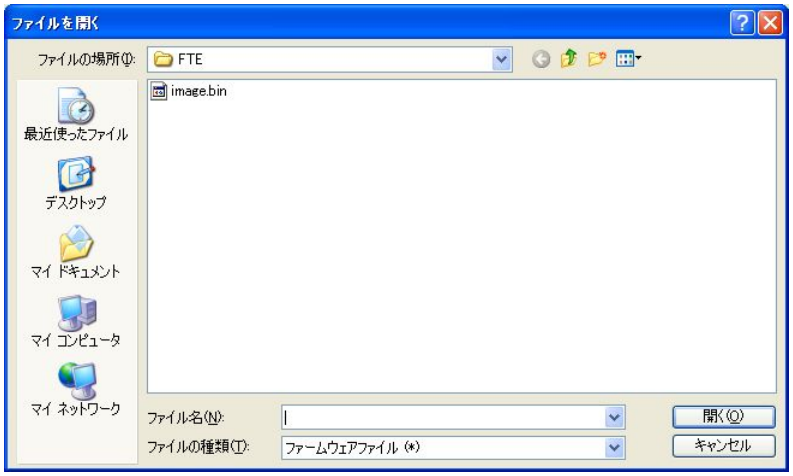
> **注意** サブネットマスクやデフォルトゲートウェイに誤った設定をした場合、設定した値と異なる値がFTEManagerに表示される場合があります。その場合、再度正しい値を設定してください。

7.3.4. ファームウェアのアップデート

端末のファームウェアをアップデートすることが出来ます。
ユニット一覧表示から、ファームのアップデートをしたい端末を選択し、「アップデート」ボタンを押します。



「アップデート」ボタンをクリックすると、ファームウェアを選択するダイアログア表示されますので、
ファームウェアのファイルを選択してください。



ファームウェアのアップデートをおこなうと対象のユニットは自動で再起動します。確認ダイアログが表示されますので、再起動しても問題ない場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

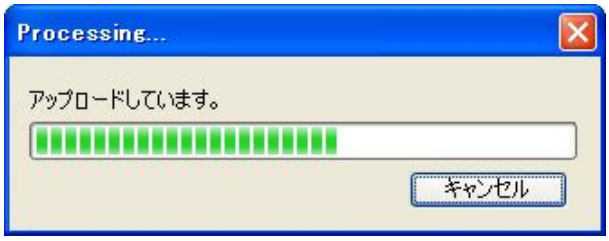
> 注意　再起動するとこれまでに受信したｅ情報・緊急情報のデータは消去されます。

パスワードを入力するダイアログが表示されますので、パスワードを入力して「OK」をクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、設定を更新し、再起動します。
パスワードはWeb管理ツールへログインするときに使用するパスワードと同じになります。
パスワードはWeb管理ツールのユーザ認証設定で変更できます。 ☛ 6.3.3ユーザ認証設定（21ページ）

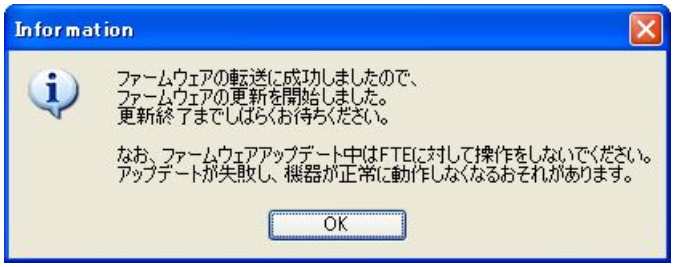
注意

アップデート対象の端末にすでにログインしているユーザがいた場合は、エラーメッセージが表示されます。他のユーザがログイン中はアップデートできません。ログインしているユーザをログアウトさせてから、ファームウェアのアップデートを行ってください。

ファームウェアの転送を開始します。転送を途中で中断したい場合は「キャンセル」ボタンを押してください。

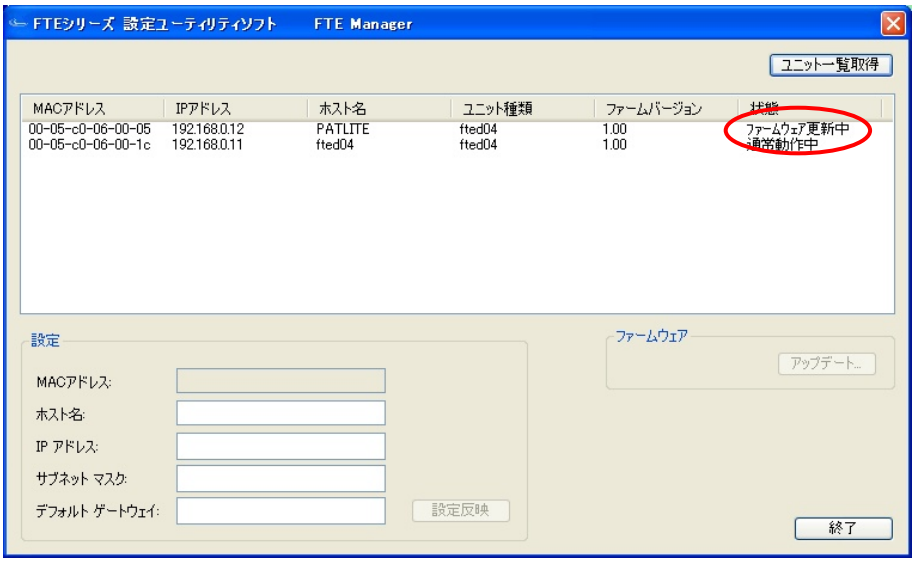


ファームウェアの転送をが完了すると、転送完了のダイアログを表示します。
ファームウェアの転送完了後、アップデートを開始します。



注意 ファームウェアのアップデート中は、端末の操作をしたり、電源を切ったりしないでください。端末が正常に動作しなくなる場合があります。

ファームウェアアップデート中に「ユニット一覧取得」ボタンをクリックするとユニット一覧表示欄の状態に“ファームウェア更新中”と表示されます。



ファームウェアの更新が終了すると端末は自動で再起動します。再起動が終了すると、状態に通常動作中と表示します。ファームウェアの更新は通常10分以内で完了します。10分以上経っても表示が変わらない場合は、ファームウェアのアップデートに失敗している可能性があります。このような場合には「ユニット一覧取得」ボタンをクリックして端末の状態を確認してください。ファームウェアアップデートに失敗していると、ユニット一覧表示欄の状態に“!ファームウェア更新失敗!”と表示されます。

ファームウェアの更新に失敗した場合は、再度ファームウェアのアップデート操作を行ってください。2～3回実行しても失敗する場合は、本機内で異常が発生している可能性があります。
このような場合は、お手数ですが、お求めの販売店か弊社サポートセンターまでお問合せください。

注意 ファームウェアのアップデート中は全ての機能が停止します。地震速報をファームウェアアップデート中の端末に送信しても、動作しません。

Point ユニット一覧表示欄で複数のユニットを選択してから「アップデート」ボタンをクリックすると、一度に複数の端末のファームウェアをアップデートすることが出来ます。
ファームウェアアップデート中は端末の機能が停止しますので、複数を一度にアップデートしても問題がないことをご確認の上実行してください。

Point ユニット一覧表示欄に表示されている端末の行をダブルクリックすると、OS標準のブラウザが起動し、Web管理ツールのログイン画面が表示されます。

8. 修理を依頼される前に

8.1. 通知画面

動作中に異常が発生した場合、または何らかの通知が必要な場合に通知画面（Error 画面）を表示します。
動作中に回復不能な異常が発生した場合に表示されます。その際、Error 画面に表示の Error 番号および Error 内容をメモしておいてください。「戻る」ボタンを押すと、「日時表示画面」へ切り替わります。異常の内容によっては、ボタン操作ができなくなっていたり、日時表示画面が表示できなくなっていたりする場合もあります。このような場合は、お求めの販売店、もしくは次ページ記載のフリーコールまでお問い合わせください。

8.2. 表示画面に異常/通知メッセージが表示されたとき

メッセージ内容	原因	対処方法
NTP異常	本機の時刻とNTPサーバの時刻の差が60秒以上あるためです。	Web管理ツールから時刻を設定しなおしてください。 ☞ 6.3.4時刻設定(22ﾍﾟｰｼﾞ)
	NTPサーバと通信できないためです。	NTPサーバか稼動しているか確認してください。
		LANケーブル、HUB等ネットワークに異常が無いか確認してください。
通信異常	地震速報サーバと通信できないためです。	地震速報サーバが稼動しているか確認してください。
		LANケーブル、HUB等ネットワークに異常が無いか確認してください。
	地震速報サーバがハートビートコマンドを送信する間隔と端末が受信する間隔があっていないためです。	Web管理ツールからハートビート設定をしなおしてください。 ☞ 6.3.9ハートビート設定 (34ﾍﾟｰｼﾞ)
電源異常	ACアダプタが正しく接続されていないためです。	ACアダプタ接続端子に正しく接続してください
		コンセントを正しく接続してください。
電池交換	電池を装着してから2年が経過したためです。	電池を交換してください。 ☞ 5.2バッテリーを取付ける(13ページ)

上記の対処をされても問題が解決されない場合は、お求めの販売店または下記相談窓口までお問合せください。

技術相談窓口： フリーコール **0120－497－090**

受付9:00～17:00(日･祝日は留守番電話による対応)　技術相談窓口、修理相談窓口共通FAX **072－948－7999**

ハードウェアの故障などにより製品修理をご依頼いただく場合、弊社作業上、IPアドレスなどの本体諸設定は初期化してのご返却となります。ご面倒ですが、必ずお客様で設定いただきました諸設定情報の控えをとっていただき、ご返却後お客様にて再設定を行っていただきますようお願いいたします。

9. 本機の仕様と概要

9.1. 一般仕様

項目	仕　　様
定格電圧	100V AC（付属アダプタ使用）
消費電流	0.3A以下
使用温度範囲	0℃～40℃（氷結・結露なきこと）
保存温度範囲	－20℃～50℃（氷結なきこと）
相対湿度	85%RH以下（結露なきこと）
通信方式	物理層：Ethernet（IEEE802.3準拠） 10BASE-T/100BASE-TX（自動切換）
	データリンク層　　：CSMA/CD方式
	ネットワーク層　　：IP・ARP
	トランスポート層　：TCP
	アプリケーション層：HTTP・NTP
表示灯部	赤・青・黄の3色表示（透明グローブ） 各表示灯部は独立し、1色ずつ警告表示する
接点出力部	無電圧リレー接点出力(a接点)4点（AC125V,2A・DC30V,2A） 突入電流も容量の2Aを超えないようにしてください。
	単線：φ0.65-1.2mm（AWG22-16） より線：0.2-1.25mm^2（AWG24-16）
	スクリューレス端子台
ブザー音	大：85dB 小：75dB（at 1m）、OFF 音量設定はWeb画面にて設定
表示部	FSTN液晶（160x128ドット,LEDバックライト）
筐体材料	ABS
設置場所	屋内専用
取り付け方法	壁取付け方式・据え置き方式（オプション）
質量	1.0kg以下（バッテリー装着時）
保護等級	IP20

10. フリーソフトウェア利用許諾条件

本章では、本製品で利用されるフリーソフトウェアの著作権について明記します。

10.1. GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain

that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices
stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in
whole or in part contains or is derived from the Program or any
part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third
parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively
when run, you must cause it, when started running for such
interactive use in the most ordinary way, to print or display an
announcement including an appropriate copyright notice and a
notice that there is no warranty (or else, saying that you provide
a warranty) and that users may redistribute the program under
these conditions, and telling the user how to view a copy of this
License. (Exception: if the Program itself is interactive but
does not normally print such an announcement, your work based on
the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If
identifiable sections of that work are not derived from the Program,
and can be reasonably considered independent and separate works in
themselves, then this License, and its terms, do not apply to those
sections when you distribute them as separate works. But when you
distribute the same sections as part of a whole which is a work based
on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of
this License, whose permissions for other licensees extend to the
entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest
your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to
exercise the right to control the distribution of derivative or
collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program
with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of
a storage or distribution medium does not bring the other work under
the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it,
under Section 2) in object code or executable form under the terms of
Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable
source code, which must be distributed under the terms of Sections
1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three
years, to give any third party, for a charge no more than your
cost of physically performing source distribution, a complete
machine-readable copy of the corresponding source code, to be

distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software

Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

Appendix: How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) 19yy <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or

(at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful,
but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of
MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the
GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License
along with this program; if not, write to the Free Software
Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this
when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) 19yy name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'.
This is free software, and you are welcome to redistribute it
under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate
parts of the General Public License. Of course, the commands you use may
be called something other than `show w' and `show c'; they could even be
mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your
school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if
necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program
`Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into
proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may
consider it more useful to permit linking proprietary applications with the
library. If this is what you want to do, use the GNU Library General
Public License instead of this License.

10.2. GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991

Copyright (C) 1991 Free Software Foundation, Inc.
675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the library GPL. It is
 numbered 2 because it goes with version 2 of the ordinary GPL.]

Preamble

  The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

  This license, the Library General Public License, applies to some specially designated Free Software Foundation software, and to any other libraries whose authors decide to use it. You can use it for your libraries, too.

  When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

  To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library, or if you modify it.

  For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link a program with the library, you must provide complete object files to the recipients so that they can relink them with the library, after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

  Our method of protecting your rights has two steps: (1) copyright the library, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

  Also, for each distributor's protection, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free library. If the library is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original version, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

  Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that companies distributing free software will individually obtain patent licenses, thus in effect transforming the program into proprietary software. To prevent this,

we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License, which was designed for utility programs. This license, the GNU Library General Public License, applies to certain designated libraries. This license is quite different from the ordinary one; be sure to read it in full, and don't assume that anything in it is the same as in the ordinary license.

The reason we have a separate public license for some libraries is that they blur the distinction we usually make between modifying or adding to a program and simply using it. Linking a program with a library, without changing the library, is in some sense simply using the library, and is analogous to running a utility program or application program. However, in a textual and legal sense, the linked executable is a combined work, a derivative of the original library, and the ordinary General Public License treats it as such.

Because of this blurred distinction, using the ordinary General Public License for libraries did not effectively promote software sharing, because most developers did not use the libraries. We concluded that weaker conditions might promote sharing better.

However, unrestricted linking of non-free programs would deprive the users of those programs of all benefit from the free status of the libraries themselves. This Library General Public License is intended to permit developers of non-free programs to use free libraries, while preserving your freedom as a user of such programs to change the free libraries that are incorporated in them. (We have not seen how to achieve this as regards changes in header files, but we have achieved it as regards changes in the actual functions of the Library.) The hope is that this will lead to faster development of free libraries.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, while the latter only works together with the library.

Note that it is possible for a library to be covered by the ordinary General Public License rather than by this special one.

GNU LIBRARY GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Library General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also compile or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

c) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

d) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally

accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this

License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Library General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

Appendix: How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or
modify it under the terms of the GNU Library General Public
License as published by the Free Software Foundation; either
version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful,
but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of
MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU
Library General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Library General Public
License along with this library; if not, write to the Free
Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your
school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if
necessary. Here is a sample; alter the names:

  Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the
  library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

  <signature of Ty Coon>, 1 April 1990
  Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

10.3. BSDライセンス

Copyright (c) 1989, 1993, 1994
    The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Case Larsen.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions
are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright
   notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
   notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
   documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors
   may be used to endorse or promote products derived from this software
   without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND
ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE

ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
SUCH DAMAGE.

謝辞

本製品では、各種のフリーソフトウェアを利用しています。各フリーソフトウェアの作者ならびに関係者の方々に感謝いたします。

- This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
- Portions of this software are copyright 2006 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

動作設定チェックシート

地震速報受信時の動作設定チェックシート

表示灯	到着10秒前まで	点灯方法	□点灯しない	□赤点灯	□赤点滅	□黄点灯
			□黄点滅	□青点灯	□青点滅	□状態維持
	到着直前	点灯方法	□点灯しない	□赤点灯	□赤点滅	□黄点灯
			□黄点滅	□青点灯	□青点滅	
	到着後	点灯方法	□消灯	□秒後消灯	□状態維持	
		n 秒後消灯	秒			
ブザー	到着10秒前まで	鳴動方法	□鳴らない			
			□ピピッ	□ピピピ	□ピーーー	□ピッのみ
	到着5秒前まで	鳴動方法	□鳴らない			
			□ピピッ	□ピピピ	□ピーーー	□ピッのみ
	到着直前	鳴動方法	□鳴らない			
			□ピピッ	□ピピピ	□ピーーー	□ピッのみ
	到着後	鳴動方法	□停止	□秒後停止	□状態維持	
		n 秒後停止	秒			
リレー出力	1 到着まで 秒 ～ 秒	操作方法	□しない	□する	□状態維持	
	1 到着後	操作	□秒後OFF	□秒後ON	□状態維持	
		秒数	秒			
	2 到着まで 秒 ～ 秒	操作方法	□しない	□する	□状態維持	
	2 到着後	操作	□秒後OFF	□秒後ON	□状態維持	
		秒数	秒			
	3 到着まで 秒 ～ 秒	操作方法	□しない	□する	□状態維持	
	3 到着後	操作	□秒後OFF	□秒後ON	□状態維持	
		秒数	秒			
	4 到着まで 秒 ～ 秒	操作方法	□しない	□する	□状態維持	
	4 到着後	操作	□秒後OFF	□秒後ON	□状態維持	
		秒数	秒			

通常運転時動作設定チェックシート

表示灯	点灯方法	□点灯しない	□青点灯	□青点滅

ｅ情報／緊急情報／キャンセル報受信時の動作設定チェックシート

表示灯		点灯方法	□点灯しない	□赤点灯	□赤点滅
			□黄点灯	□黄点滅	□青点灯
			□青点滅	□状態維持	
ブザー		鳴動方法	□鳴らない	□ピピッ	□ピピピ
			□ピーーー	□ピッのみ	
		音量	□大	□小	
		ｎ秒後停止	秒		
リレー出力	1	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		
	2	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		
	3	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		
	4	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		

定時報受信時の動作設定

リレー出力	1	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		
	2	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		
	3	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		
	4	操作方法	□しない	□する	□状態維持
		ｎ秒後停止	秒		

製品保証規定

この保証規定は、お買い上げいただいた製品に対して株式会社パトライト（以下弊社）が
お客様に保証する内容について明記しています。

■ 製品保証について

取扱説明書等の注意書きに基づくお客様の正常なご使用状態のもとで、保証期間内に万一故障した場合、無償にて故障箇所の修理または製品の交換をさせていただきます。製品保証の原則は故障箇所の修理です。

■ 保証期間

製品はお客様がお買い求めいただいてから12ヶ月間の保証をいたします。
保証期間経過後は有償修理扱いとなります。　保証期間内に製品の修理・交換対応があったとしても、保証期間はその製品のお買い上げ日より12ヶ月間をもって満了となります。

■ 保証内容について

保証は製品の無償修理または交換に限定され、お客様の故障品調査や作業人件費、交通費・付属品など、製品以外に関する費用は保証の対象ではありません。

■ 保証範囲除外事項

以下の場合、または以下のように見受けられる場合は、製品の無償修理または交換の対象となりません。

- 火災、地震、落雷、塩害、風水雪害、その他天災地変、または異常電圧などによる故障・損傷の場合
- 停電、電源・ケーブル等の故障による電気の切断に起因する故障・損傷の場合
- 製品を取付け又は接続しているお客様の装置・機器・車両・船舶等との間に生じる独特の動作不具合や故障の場合
- 指定環境や推奨環境以外でのご使用により発生する不具合や故障の場合
- 製品性能を超える環境やご使用方法により発生する不具合や故障の場合
- お客様の使用上の誤りやお客様が独自に改造・修理・部品交換をされたことに起因する故障・損傷の場合
- 交換/取付け作業による製品破損（例:物理的破損、静電気によるデバイス等損傷など）の場合
- 輸送・移動時の落下衝撃等、お客様の取り扱いが適正でないために生じた故障・損傷の場合
- 故意または過失による製品の故障または破損の場合
- 製品が日本以外の国で使われている場合

■ 保証免責事項

お買い上げ製品（ソフトウエアを含む）の故障もしくは動作不具合により直接または間接的に生じた被害・損害、設備および財産への損害、お客様および関係する第三者の製品やシステムへの損害、顧客からの信用、またはそれらを修復する際に生じる費用（人件費、交通費、復旧費）など、一切の保証は致しかねます。

■責任制限

- 弊社の責任範囲は、製品の故障箇所の修理または交換のみに限ります。
  従いまして、製品自体または製品の使用から直接または間接的に生じたいかなる損害についても、弊社に故意または重大なる過失がある場合を除き、一切責任を負うものではありません。
  また、弊社が責任を負う場合でも、重大な人身損害の場合を除き、お客様が購入された製品価格を超えて責任を負うものではありません。
- 製品の修理や交換がサービス応答時間内に対処できないことから発生する直接的及び間接的損失または損害、並びに逸失利益の責任を弊社は負いません。
- 弊社が発行する製品取扱説明書その他の文書、または情報に印刷上、事務上、その他誤りまたは記述漏れがある場合は、弊社は責任なしに修正することができます。また、そこから発生するあらゆる損失または損害において弊社は一切責任を負うものではありません。

注 この保証書は本書に明示した期間・条件のもとで無償修理または交換をお約束するもので、お客様の法律上の権利を制限するものではありません

世界中に「安心・安全・楽楽」をお届けする
株式会社 パトライト Y5O

PATLITE Corporation

東　京 TEL. 03(5541)6711　名古屋 TEL. 052(934)2211
仙　台 TEL. 022(256)5656　大　阪 TEL. 06(6763)8800
関　東 TEL. 048(640)2020　広　島 TEL. 082(297)2277
横　浜 TEL. 045(473)1118　福　岡 TEL. 092(474)8111

※電話番号などは、変更されることがあります。最新情報は、当社ホームページでご確認ください。

http://www.patlite.co.jp

受付時間 9:00～17:00
日/祝祭日と夏期/年末年始の休日は、
留守番電話でお受けいたします。

●技術相談窓口 (無料) フリーコール 0120(497)090 (シグナル オクレ)

※ご注文・価格・商品内容等は、各営業所拠点または代理店にお問い合わせください。